

館 報

第 45 号

(令和5年度)



富山市科学博物館の理念と使命

理念

富山市科学博物館は、市民の自然科学への関心と理解を深め、学習を支援し、市民生活の向上に貢献します。

使命

自然科学の総合博物館として、知的財産の継承を行うとともに郷土の自然の特性を解明し、自然科学の普及、理解向上に寄与します。

郷土の拠点となる自然科学系総合博物館として、関連する施設と連携しながら、幅広く富山の特性を生かした資料収集・調査研究・展示・普及教育の活動を行っていきます。

富山の自然を中心とした多様な実物標本・文献などの資料を、市民の貴重な知的財産として未来に伝えていくため、積極的に収集し、将来にわたって活用が可能なように整理保管を行うとともに、郷土の自然の特性を解明するなど、調査研究を進めていきます。

市民と自然科学との橋渡し役を担うべく、多様な展示や普及活動を展開し、特徴ある郷土の自然から宇宙まで広く自然科学について認識を深め、自然と共にある人間の姿を考えていきます。

主要事業

収集保管

郷土富山の自然や自然科学に関する実物標本、文献、映像、情報などの資料を計画的に収集し整理保管する。

郷土の自然を研究する方々のコレクションを積極的に受け入れ、富山の自然資料のセンターとしての役割を果たす。

収集した資料は「市民の貴重な財産」として将来に確実に引き継ぐとともに、データベース化を進め、展示や閲覧・貸し出し等により資料の活用を図る。

調査研究

収集した資料と情報を活用して、富山を中心とした地域の自然とそれにかかわる科学的事象について幅広い視点で調査研究し、その意味・価値を明らかにする。

研究成果は、館の研究報告、展示、講演会等で公開する。

また、最新の情報とその成果を吸収するよう研修に努め、高度化多様化するニーズに応じていく。

展 示

富山の自然環境とその生き立ちについて楽しく学習できる展示を行い、自然科学への認識を深める場、知的レクリエーションの場を提供する。

さらに、館の収集・研究の成果等を公開する場として特別展・企画展等を行うとともに、市民や児童生徒の活動成果を展示紹介する場を設け、自然観・科学観の育成を図る。

普 及

自然科学情報発信の場として、博物館資料や研究成果を活用しながら、科学のおもしろさや富山の自然の特徴を市民にわかりやすく伝える。

プラネタリウムで天文事象を紹介するとともに、多様な分野の学習会を館内外で展開する。

学校等の教育施設には、講師派遣・展示品貸し出し、各種印刷物の配布などをおして、連携・協力を積極的に行う。

ボランティア活動、友の会活動等を通じ、市民の学習を積極的に支援する。

目 次

富山市科学博物館の理念と使命

1 概要

- I 沿革 1
- II 組織 2
- III 令和5年度予算・決算 6
- IV 観覧者及び施設利用の状況 7
- V 施設概要及び利用案内 9
- VI 令和6年能登半島地震の当館施設等への影響と対応 10

2 調査研究事業

- I 研究体制 12
- II 分野別研究 12
- III 博物館学的研究 13
- IV 「研究報告第47号」の発行 13
- V 執筆文書
 - 1 学術論文 14
 - 2 読み物 14
- VI 学会などでの発表 15
- VII 科学研究費補助金による研究等 15
- VIII 表彰 15
- IX 国内の研修や学会などへの参加 15
- X 研究発表会等
 - 1 科学セミナー 16
 - 2 研究発表会 16

3 展示事業

- I 常設展示 17
- II 特別展 17
- III 企画展 17
- IV ロビー展示 19
- V その他 20

4 資料収集事業

- I 標本の受け入れ 21
- II 蔵書 22
- III 収蔵標本数の推移 22
- IV 標本等データベースのデータ数 23
- V 地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) へのデータ登録 23
- VI 主な標本類貸し出し 23
- VII 収蔵標本の閲覧 23
- VIII 害虫防除 24

5 普及教育事業

- I 館単独で主催した行事
 - 1 館外での行事 25
 - 2 館内での行事 26
- II 他機関・団体と共同で開催した行事
 - 1 館外での行事 32
 - 2 館内での行事 33
- III レファレンス (質問への回答) 35
- IV 移動ミニ博物館 36
- V 普及出版物 37
- VI 学校による博物館利用への協力 38
- VII 令和5年度「SDGs-ESD 富山シンポジウム」への参加 39
- VIII 市役所出前講座「科学博物館の展示と活動について」の実施 39

6 プラネタリウム投影事業

- I 一般向け投影 40
- II 幼児向け投影 42
- III 学習投影 42
- IV 特別投影 42

- V 特別イベント 43

7 恐竜化石事業

- I 普及行事 46

8 情報・広報事業

- I 情報システム 47
- II ウェブサイト・チラシ等による広報 47
- III 富山市広報・マスコミによる広報 48

9 他機関への協力

- I 全国大会等の開催 51
- II 研修等の受入
 - 1 教員研修「社会体験研修」の受入 51
 - 2 職場体験学習「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」の受入 51
 - 3 インターンシップの受入 51
 - 4 博物館実習生の受入 51
 - 5 富山大学「博物館展示論」への協力 52
 - 6 大学生・大学院生への研究指導の受入 52
 - 7 「令和5年「宇宙の日」記念全国小・中学生作文絵画コンテスト」の開催 52
- III 講師等の派遣
 - 1 講演会・講習会への派遣 52
 - 2 会議・研究会等への派遣 53
 - 3 大学非常勤講師派遣 55
- IV 委員等受嘱 55

10 ボランティア事業

- I 登録者数と活動時間 57
- II 活動内容 57
- III ボランティア通信の発行とメーリングリストの運営 58

11 「ジュニア科学賞・とやま」事業 59

12 科学博物館整備事業 60

13 富山市科学博物館友の会

- I 役員構成 61
- II 活動内容 61

14 アンケート調査結果

- I プラネタリウム幼児向け投影参加団体アンケート 63
- II プラネタリウム学習投影参加校アンケート 64

1 概要

I 沿革

昭和

- 50. 8 教育委員会に科学文化センター構想プロジェクトチームを設置
- 51.12 富山市科学文化センター建設委員会設置
- 52. 1 基本構想策定建設設計委託
- 52. 8 職員全国公募、ディスプレイ設計委託
- 53. 5 建築設計完了
- 53. 7 建築工事請負契約締結、プラネタリウム設置工事請負契約締結着工
- 53. 8 ディスプレイ設計完了
- 54. 9 建築工事完了、富山市科学文化センター条例制定
- 54.10 プラネタリウム設置工事完了
- 54.11 竣工式(21日)、公開(23日)
- 55. 6 公立博物館として登録
- 55. 9 入館者 10 万人達成
- 58.10 皇太子・同妃殿下行啓
- 59.11 入館者 50 万人達成
- 59.11 科学文化センター創立5周年記念式典
- 60. 5 第1回理工展示室展示替え完了
- 62. 6 科学文化センター別館新築設計委託
- 62.10 科学文化センター別館新築設計完了

平成

- 1. 3 別館竣工
- 1. 7 別館竣工記念式典及び記念特別展「深海」開催
- 1.11 科学文化センター創立 10 周年記念式典
- 2. 5 入館者 100 万人達成
- 3.12 情報検索システムの導入
- 4. 3 第 1 回自然史展示室等展示替え完了
- 4.12 富山市天文台懇話会答申
- 5. 3 第 2 回理工展示室展示替え完了
- 5.12 富山市天文台基本構想策定委員会答申
- 6. 3 プラネタリウム更新(1回目)
- 6.12 天文台基本設計完了
- 7. 3 天文台実施設計完了
- 7. 5 入館者 150 万人達成
- 9. 7 天文台竣工式(18日)、公開(19日)
- 9. 9 天文台の入館者 1 万人達成
- 9.12 ホームページ公開
- 11. 3 第 3 回理工展示室展示替え完了
- 11.11 創立 20 周年記念事業(23日入館料無料)
- 14. 4 土・日・祝日を小中学生の入館料無料化
- 14. 7 入館者 200 万人達成
- 15. 8 ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊氏が来館
- 15. 9 文部科学大臣による科学研究費補助金取扱規程に基づく研究機関の指定
- 15. 9 常設展の展示替え基本設計委託
- 16. 2 田中耕一氏紹介コーナーの設置
- 16. 2 第1回「ジュニア科学賞・とやま」表彰
- 16. 6 常設展の展示替え実施設計委託
- 16. 8 天文台の入館者 10 万人達成

平成

- 16.11 創立 25 周年記念事業(23日入館料無料)
 - 17. 8 アスベスト浮遊検出により理工展示室閉鎖
 - 17.12 本館耐震診断を実施
 - 18. 9 リニューアル工事のため全面休館(～H19.7)
 - 19. 3 能登半島地震(3/26 富山市震度5弱) 外壁調査
 - 19. 7 リニューアルオープン記念式典(13日)
 - 19. 8 リニューアル後の入館者 5 万人達成(30日)
 - 20. 1 リニューアル後の入館者 10 万人達成(13日)
 - 20. 7 リニューアル後の入館者 15 万人達成(6日)
 - 20.11 リニューアル後の入館者 20 万人達成(3日、科学博物館まつり開催日)
 - 21. 1 プラネタリウム更新のためプラネタリウム休止(～4/23)
 - 21. 4 プラネタリウム更新(2回目)
 - 21. 7 「カップル無料の日」開始
 - 22. 1 常陸宮殿下・同妃殿下ご視察(26日)
 - 23. 8 リニューアル後の入館者 50 万人達成(2日)
 - 24. 1 太陽光発電パネル設置
 - 24. 1 展示室内省エネルギー照明整備(LED化)
 - 24. 7 本館設備改修工事(～H26.7)
孫とおでかけ支援事業開始
 - 25. 5 入館者 300 万人達成(2日)
 - 26. 8 土・日・祝日を高校生の入館料無料化
土を高校生以上カップルの入館料無料化
 - 26.10 天文台の入館者 20 万人達成
 - 27.11 リニューアル後の入館者 100 万人達成
 - 28.10 天文台が環境大臣賞受賞
 - 29. 4 高校生以下の入館料無料化
 - 30. 9 道路崩落による通行止めのため、天文台臨時休館
- 令和
- 2. 3 新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 対策のためプラネタリウムを含む一部イベント中止
 - 2. 4 新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 感染拡大防止のため、国の緊急事態宣言等に呼応し臨時休館(4月15日～5月31日)
 - 3. 3 天文台廃止
 - 3. 8 富山市が「まん延防止等重点措置」の対象地域に指定されたこと等により、臨時休館(8月18日～9月12日)
 - 4. 8 入館者 400 万人達成(16日)
 - 4.10 プラネタリウム更新のため3階展示室を休止(10/17～3/15)
 - 5. 3 プラネタリウム更新(3回目)、リニューアルオープン(16日)
 - 6. 1 能登半島地震(富山市震度5強) 外壁・内壁補修

(3) 富山市科学博物館協議会

委員（委員は五十音順） 任期：令和5年6月1日～令和7年5月31日

区分	氏名	役職名
会長	青木 一真	富山大学学術研究部理学系 教授
副会長	牧野 弥一	富山市科学博物館友の会 会長
委員	飯田 肇	富山県立山カルデラ砂防博物館 学芸課長
〃	上野 美智代	富山市小教研理科部会 理科部長
〃	浦畑 清恵	富山市立八尾保育所長
〃	川口 勝之	富山県天文学会 会長
〃	堀 篤史	富山市中教研理科部会 理科部長
〃	宮池 秀洋	富山県理化学会副会長
〃	山崎 裕治	富山大学学術研究部理学系 准教授
〃	吉川 満博	富山市PTA連絡協議会 顧問

協議会

1 日時 令和5年7月20日（木）午後3時から

2 場所 科学博物館多目的学習室

3 議題 (1) 議題

- ・令和4年度事業報告
- ・令和5年度事業計画
- ・その他

4 主な質疑等 ①高校生の利用が増えているが、何か取組をした結果なのか。

(答) 高校生の来館は5月が一番多く、次が3月であった。その時期は、大学と高校で連携して進めている事業の、課題研究のテーマ決めをする時期と重なっている。それを調べに科学博物館に来ているのであれば大変うれしく思う。

②「孫とおでかけ事業」については、県内の市町村のほとんどが対象であるが、多くの方が科学博物館に来館している。科学系の博物館は富山市にしかないという意味で来館していると考えてよいか。

(答) コロナ禍においては精神的に抑制されていたが、最近は家族で来てゆっくりできるということで来ていただいているものと考えている。

③AIカメラを設置して混雑状況を把握しているという説明があったが、今後、AIカメラを活かしてほかにも様々な調査を行ってほしい。

(答) 監視カメラの運用に関しては、国によって個人情報保護の面から厳格に制限が設けられており、現在の用途以外の目的での利用は想定していない。

④入館者数の回復の背景として、多くの素晴らしい行事があることが理由の一つであると思うが、職員はかなり大変な思いをしているのではないか。人員体制を強化するということはあるのか。

(答) 人員増は難しく、現在の人員でできることを実施していく予定である。

⑤オンライン授業の話があったが、業務に負担が生じるのではないか。来館し、実際に触れていただくのが基本であると考えます。

(答) オンラインの授業参加については、学芸員と博物館に親しみをもってもらい、当館に足を運ぶきっかけづくりというねらいがある。また、先生方にも学芸員に親しみを感じてもらい、学校での利用につながることを期待している。業務量としては増えているが、たくさんの方に来館していただきたいという思いで実施している。

⑥オンライン授業の他にもリモートのよさを活かしていこうとする計画はあるのか。

(答) これまでも天文現象や研究発表会などをライブ中継してきたが、今年度も同程度実施していく予定であり、新規事業については来年度以降に検討していきたい。

⑦展示更新について、現段階の状況で結構なので具体的に説明してほしい。新展示の基本的な考え方にある、「触れる」、または「体験する」ことは重要であると思うが、現段階でのアイデアがあれば説明していただきたい。

(答) インターネットで画像やデータを見ることが簡単にできる時代となっているが、当館では、実物に触れていただくことを重視していきたいと考えている

⑧小学校と中学校の違いを考慮した取り組みはしているか。

(答) 特に行っていないが、今後は、中学生にも来ていただけるようなプログラムも考えていきたい。小学生は学校行事で来館し、中学生以降は、自ら来館していただけるようになっていけばよいと考えている。

(4) 富山市科学博物館の学校利用推進に関する事務打ち合わせ会

出席者名簿

教育委員会事務局

氏名	職名
竹 脇 孝 志	事務局次長・教育センター所長

市小学校長会

氏名	職名	
國 香 真 紀 子	会 長	芝園小学校長

市小教研理科部会

氏名	職名	
上 野 美 智 代	部 長	五福小学校長
阿 閉 令 奈	部 員	月岡小学校教諭
宮 原 美 充	部 員	速星小学校教諭
赤 尾 純 平	部 員	保内小学校教諭
上 山 芙 未	部 員	蟪川小学校教諭
田 村 暁 良	部 員	藤ノ木小学校教諭

学校教育課

氏名	職名
福 満 弘 信	課長
中 島 心	指導主事

科学博物館

氏名	所 属	
水 高 清 志	総務課	館長
林 忠 史	学芸課	学芸課長
高 田 ま ど か	総務課	参事・総務課長
稲 場 春 樹	総務課	主任
坂 井 奈 緒 子	学芸課	主幹学芸員
藤 田 将 人	学芸課	主幹学芸員・課長代理
市 川 真 史	学芸課	主幹学芸員
高 畑 晃	学芸課	学校連携推進担当

- 1 日 時 令和5年8月17日(木) 午後3時30分から
- 2 場 所 科学博物館多目的学習室
- 3 協議事項 (1) 「科学博物館の利用学習」事業について
(2) 学校における科学博物館の利用について
(3) その他

(5) 「ジュニア科学賞・とやま」選考会議

委員等

選考委員

座長	片岡弘	富山大学教育学部共同教員養成課程教授
委員	三日市寛	富山県小学校教育研究会理科部長
〃	佐藤謙治	富山県中学校教育研究会理科部長
〃	作道麻記子	教育センター指導主事
〃	水高清志	科学博物館長

調査協力員

物理	吉田貴弘	富山市立芝園小学校 教諭
化学	鼎裕憲	富山市立新庄北小学校 教諭
生物	藤井岳人	富山市立池多小学校 教頭
地学	宮原美充	富山市立速星小学校 教諭
物理・化学	佐伯健太	富山市立大沢野中学校 教諭
生物・地学	島田鉄男	富山市立大泉中学校 教諭
物理	市川真史	科学博物館 学芸課主幹学芸員
生物	坂井奈緒子	科学博物館 学芸課主幹学芸員
地学・化学	藤田将人	科学博物館 学芸課主幹学芸員（学芸課長代理）

第1回選考会議（選考準備・書面開催）

- 1 議題 (1) 「ジュニア科学賞・とやま」の趣旨及び推薦要項について
(2) 受賞者選考の進め方について
(3) 座長の選出について

第2回選考会議（一次選考）

- 1 日時 令和5年11月27日（月）午後2時30分から
- 2 場所 科学博物館多目的学習室
- 3 議題 受賞候補者の選定について

第3回選考会議（二次選考）

- 1 日時 令和5年12月8日（金）午後2時30分から
- 2 場所 科学博物館多目的学習室
- 3 議題 受賞者の選定について

Ⅲ 令和5年度予算・決算

上段：当初予算額

下段：決算額

(単位：千円)

(1) 歳入

款	項	目	節	当初予算額 (決算額)
使用料及び手数料	使用料	教育使用料	社会教育使用料	15,681
				20,069
財産収入	財産運用収入	財産貸付収入	土地建物貸付収入	870
				1,112
諸収入	雑入	雑入	雑入	365
				437
歳入合計				16,916
				21,618

(2) 歳出

(単位：千円)

款	項	目	節	当初予算額 (決算額)
教育費	社会教育費	科学博物館費	報酬	22,189
				25,220
			給料	63,131
				64,173
			職員手当等	41,555
				43,996
			共済費	24,133
				24,269
			報償費	397
				365
			旅費	1,807
				1,824
			需用費	32,001
				32,160
	1,668			
	1,395			
	47,569			
	45,236			
	3,216			
	2,043			
	324			
	373			
	142			
	130			
歳出合計				238,132
				241,184

Ⅳ 観覧者及び施設利用の状況

(1) 観覧者 年間 129,875 人、1 日平均 378 人、1 日最高 1,511 人 (令和 5 年 5 月 6 日)

(2) 月別・区分観覧状況 (単位:人、日)

区 分	個人													団体						合 計	特 別 展 示	日 数	
	大人		幼 児	小 学 生	中 学 生	高 校 生	高 齢 者	障 害 者 手 帳 持 有 者	孫とおでかけ		パ 3 日 間 共 ス 通	バ 年 間 共 ス 通	カ ッ プ ル	大 人	小 人	小・中・特別支援学校			幼・保・ こども園				
	有 料	無 料							引 率	児 童 ・ 生 徒 市 内						市 外 県 外	引 率	園 児					
4	2,116	46	1,677	1,676	254	123	85	365	637	777	36	1,045	1,176	487	53	25	0	271	6	16	10,871	0	30
5	2,707	82	1,657	1,409	192	192	79	433	598	733	54	834	1,031	946	0	63	38	607	64	266	11,985	0	29
6	1,437	134	1,274	850	76	90	57	268	255	297	16	719	770	532	36	56	74	251	401	2,588	10,181	0	30
7	2,734	166	2,401	2,293	174	124	37	458	696	844	22	1,153	1,462	933	115	18	74	70	78	431	14,283	704	28
8	4,639	291	2,929	3,798	452	283	0	685	1,552	1,953	50	1,175	1,276	1,682	388	11	0	20	0	0	21,184	1,697	31
9	1,816	83	1,537	1,022	92	97	87	306	345	387	19	755	924	608	0	88	61	645	16	74	8,962	130	27
10	1,672	99	1,449	1,030	112	75	122	267	299	345	124	710	696	617	0	138	429	878	90	498	9,650	0	31
11	1,394	828	1,444	985	101	108	72	283	287	320	23	529	756	554	0	208	1,716	721	22	74	10,425	0	28
12	1,037	42	952	678	69	116	48	236	197	243	17	505	522	358	0	70	1,042	6	0	0	6,138	0	27
1	989	141	1,378	689	31	49	46	163	230	249	2	710	683	298	0	5	0	41	3	7	5,714	0	26
2	1,722	222	1,924	1,101	87	101	79	250	395	426	18	862	921	663	31	11	0	71	27	150	9,061	0	26
3	2,053	367	2,217	1,446	157	219	128	436	555	684	25	983	1,060	838	24	0	0	0	31	198	11,421	0	31
計	24,316	2,501	20,839	16,977	1,797	1,577	840	4,150	6,046	7,258	406	9,980	11,277	8,516	647	693	3,434	3,581	738	4,302	129,875	2,531	344
計 割合	107,964 83.1%											9,163 7.1%		7,708 5.9%			5,040 3.9%		129,875 100%				

(3) 最近 5 か年の観覧状況 (単位:人)

年度	観覧総数	個人	団体	小・中・特別支援学校	幼・保・こども園
R1	107,173	91,109	3,001	6,474	6,589
R2	66,049	57,153	2,485	4,980	1,431
R3	89,015	75,079	3,733	6,544	3,659
R4	99,948	84,111	6,278	4,811	4,748
R5	129,875	107,964	9,163	7,708	5,040

(4) 幼稚園・保育所・認定こども園の観覧状況 (単位:人、園(所))

区分		引率者	園児	計	園(所)
県内	市内	529	3,001	3,530	118
	市外	209	1,301	1,510	45
県外		0	0	0	0
合計		738	4,302	5,040	163

(5) 小学校・中学校・特別支援学校の観覧状況 (単位:人、校)

区 分		引率者	児童生徒	計	学 校	
小学校	県内	市内	239	3,265	3,504	68
		市外	257	2,479	2,736	50
	県外		9	93	102	2
	計		505	5,837	6,342	120
中学校	県内	市内	7	118	125	7
		市外	39	475	514	13
	県外		41	465	506	9
	計		87	1,058	1,145	29
特別支援学校	県内	市内	43	51	94	6
		市外	50	63	113	5
	県外		8	6	14	1
	計		101	120	221	12
市内計		289	3,434	3,723	81	
市外(県内)計		346	3,017	3,363	68	
県外計		58	564	622	12	
合 計		693	7,015	7,708	161	

(6) 無料開館日の観覧者数 (単位:人)

内 容	該当日	人 数
文化の日	11月3日	1,270
合 計		1,270

(7) 施設の利用状況 (単位:回)

室 名	館主催	貸 室	合 計
多目的学習室・科学教室	22	17	39

(8) 観覧料等収納状況 (単位:円)

観覧券	個 人	530円 × 24,316人 = 12,887,480	16,464,200
	団 体	420円 × 8,516人 = 3,576,720	
追加プラネ券	個 人	210円 × 496人 = 104,160	139,260
	団 体	150円 × 234人 = 35,100	
その他	特別展	100円 × 2,531人 = 253,100	253,100
共通パスポート	(按分額)		3,024,891
観覧料計			19,881,451
施設使用料			22,450
合 計			19,903,901

V 施設概要及び利用案内

- (1) **所在地** 富山市西中野町一丁目 8 番 31 号
 (2) **敷地面積** 2,687.24㎡
 (3) **構造** 鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階、
地上3階、塔屋2階
 (4) **延床面積** 6,791.20㎡
 (5) **開館** 昭和 54 年 11 月
 (6) **利用案内**

〈開館時間〉

午前 9 時から午後 5 時まで
 (入館は午後 4 時 30 分まで)

〈休館日〉

年末年始(12月28日から翌年1月4日まで)
 臨時休館日

〈観覧料〉 (単位:円)

区分	個人	団体	小・中・特別支援学校	その他		
	大人		引率教員	高校生以下	高齢者	障害者手帳等保持者
観覧料	530	420	無料			
追加プラネ券	210	150				

- ・観覧料は展示及びプラネタリウム 1 回の観覧を含む(特別展は別料金の場合あり)。2 回以上プラネタリウムを観覧する場合は追加プラネタリウム券が必要。
- ・高校生以下、富山市内在住の 70 歳以上の高齢者、身体障害者手帳、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
- ・高校生以上のカップルは土曜日無料。

〈プラネタリウム投影時間〉

土・日曜日、祝休日		平日	
第 1 回	9:45	第 1 回	9:45
第 2 回	11:00	第 2 回	11:00
第 3 回	12:15	第 3 回	13:30
第 4 回	13:30	第 4 回	15:30
第 5 回	14:45		
第 6 回	16:00		

- ・平日第 1 回、第 2 回は団体専用時間とし、定員まで複数団体の観覧が可能。(学校長期休暇期間を除く)
- ・投影途中の入場はできない。

〈サイエンスライブ〉

- ・学芸員が科学実験ショーや工作、展示解説等を実施。
- ・毎週土・日曜日・祝休日
- ・10:30～、14:00～(各回約 15 分)

〈施設使用料〉

(単位:円)

種別	使用区分による金額		
	午前	午後	昼間
科学教室	830	990	1,820
多目的学習室 (AB いずれか)	830	990	1,820
多目的学習室 (AB 両方使用)	1,660	1,980	3,640

午前 (9:00 ~ 12:00)

午後 (13:00 ~ 17:00)

昼間 (9:00 ~ 17:00)

- ・冷暖房時は所定の使用料の 20% 相当額を増額する。
- ・使用申込みは団体に限る。科学博物館の使用目的に反する場合は許可しない。

(7) 交通機関

①市内電車

富山駅から南富山駅前行、西中野電停下車
徒歩約 7 分

②バス

富山駅から猪谷・辰尾団地・笹津・福沢・
月岡西緑町・国際大学・国立高専前行など。
西中野口バス停下車正面



VI 令和6年能登半島地震の当館施設等への影響と対応

1月1日午後4時10分ごろ、石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する地震が起き、建物やインフラに甚大な被害が生じた。富山県内でも震度5強の揺れとこれに伴う地盤の液状化等により、建物の損壊や設備への被害が多数生じた。また、津波警報も発表され、海岸付近から内陸部へと車で避難する人たちで混乱した。この地震による当館施設等への影響と対応をまとめた。

(1) 建築関係

- ・筐体 本館、別館共に影響は確認されていない
- ・外壁 本館外壁の一部にヒビ → 業者による補修を実施
- ・内壁 階段3～4階付近で落下の危険性あるヒビ → 業者による補修を実施
地下廊下の壁のクラック増加 → 検査後、支障なし
- ・床 玄関風除室のタイルの割れ → 接着剤で補修
- ・漏水 水道使用料の異常増 → 業者による漏水箇所特定と水止め作業実施
- ・エレベーター 自動休止 → 保守委託業者により復旧
- ・湧水排水ポンプ 異常停止 → 地震による過電流が原因、リセット後解消
- ・その他 館内全般にホコリや岩綿等が天井から落下
本館で多くの防火扉が閉じた

(2) 各フロアー

1 本館地下（被害軽微）

- (1) 各部屋 少数の図書・工具類が落下
- (2) 収蔵庫 被害なし

2 本館1階（被害軽微）

- (1) 学芸員室 一部の机上の書類崩れ
- (2) 「とやま・時間のたび」展示室 展示物の引き出しの飛び出し

3 本館2階（被害軽微）

(1) 常設展示室

- ①引き出しの飛び出し、非固定ラベルの転倒等 → 倒れたラベルは業者により固定
- ②ビーズコースターの経路外れ
- ③ボンボン時計停止（4時10分を指した状態）
- ④天井配管の断熱材等の落下



図1 引き出しの飛び出し

4 本館3階（被害軽微）

- (1) プラネタリウム プロジェクター冷却用ファン転倒
- (2) エアハン室 エアコン予備フィルター崩れ

5 本館 その他の場所（被害軽微）

- (1) 塔屋（5階） 少数の物品の落下

6 別館1階（被害軽微）

- (1) 各部屋 少数の物品の落下

7 別館2階（被害軽微）

- (1) 特別展示室等
 - ①可動壁の移動、下部ストッパーの変形
 - ②ラック等、物品の落下
 - ③天井の棒状の棧のずれ→業者により修正し固定

8 別館3階（中程度被害）

- (1) 収蔵庫・書架
 - ①スチール棚引き出し多数の飛び出し、落下（3杯）、一部標本の破損（図2）
 - ②作業中の液浸標本の落下、瓶割れ、ホルマリン流出
 - ③可動式書架の一部から書籍が落下
 - ④箱のない大型岩石標本、物品等の落下
 - ⑤なお、地震対策用固定バンド、ストッパー等を設置した箇所は標本箱は落下しなかった（図3）。また「もろ蓋」の箱（木箱）は落ちなかった（図2左側）



図2 3階収蔵庫の様子



図3 液浸標本の落下を防いだストッパー

9 旧天文台

- ①1枚の防火扉が閉じた（1階北側）。3階で一部物品の倒れ。

関連企画

推計震度分布図（気象庁）と面的推定震度分布（防災科研）をロビーに掲示

能登半島地震被害調査プロジェクトを実施（詳細は3展示事業を参照）

講演会「先生、教えて！能登半島地震と富山の活断層」を実施（詳細は5普及教育事業を参照）

2 調査研究事業

調査研究活動は博物館活動の基礎であり、その成果は展示や普及活動等に活用される。富山の自然の状況と人との関わりを考えることを目標として、各分野でそれぞれテーマを設定し研究活動を行っている。成果は、富山市科学博物館研究報告第47号の発行、関係する学会における発表や論文投稿、展示（企画展・特別展やロビー展示）、館主催の市民向け研究発表会等で市民に公開した。なお、館発行の普及出版物は、「5 普及教育事業」に記載した。

I 研究体制

自然史系ならびに理工系の10分野の計16人

分野	氏名 (Name)	職名
岩石分野	増渕 佳子 (Masubuchi Yoshiko)	主査学芸員
地史・古生物分野	吉岡 翼 (Yoshioka Tasuku)	会計年度任用職員
恐竜化石分野	藤田 将人 (Fujita Masato)	主幹学芸員・課長代理
植物分野	坂井奈緒子 (Sakai Naoko)	主幹学芸員
	太田 道人 (Ohta Michihito)	専門官
昆虫分野	岩田 朋文 (Iwata Tomofumi)	主任学芸員
脊椎動物分野	清水 海渡 (Shimizu Kaito)	主任学芸員
天文分野	林 忠史 (Hayashi Tadashi)	学芸課長
	近藤 秀作 (Kondo Shusaku)	主任学芸員
	宮野 彩 (Miyano Aya)	学芸員
	森山千賀子 (Moriyama Chikako)	会計年度任用職員
	石坂 卓也 (Ishisaka Takuya)	会計年度任用職員
寺崎 佑哉 (Terasaki Yuya)	会計年度任用職員	
物理分野	市川 真史 (Ichikawa Shinji)	主幹学芸員
化学分野	本田 実咲 (Honda Misaki)	会計年度任用職員
生涯学習分野	高畑 晃 (Takabatake Akira)	会計年度任用職員

II 分野別研究

■ 岩石分野

富山県内の火山岩類の記載岩石学的調査
富山県産鉱物の調査

■ 地史・古生物分野

県内産化石基礎調査
考現古生物学的基礎調査
北陸地域の新第三系層序に関する研究

■ 恐竜化石分野

富山県内産恐竜化石に関する研究
県内産中生代の化石調査

■ 植物分野

富山県の植物多様性調査
立山ルート沿線の植生復元に関する研究
富山県の蘚苔類相調査
水生蘚苔類の分布・生態学的研究

■ 昆虫分野

富山県の昆虫相調査
北陸地方を主とした希少水生昆虫の生息調査
甲虫目コガシラミズムシ科の分類学的研究

■ 脊椎動物分野

富山県の小型哺乳類相調査
富山県の鳥類相調査
富山県のコウモリ類の生息状況に関する研究

■ 天文分野

白萩隕鉄と流星刀に関する研究
流星に関する観測と研究

■ 物理分野

測定技術に関する調査と研究
展示装置に関する研究
科学的要素を含む体験的工作に関する研究
蜃気楼の研究

■ 化学分野

分析技術に関する調査と研究

Ⅲ 博物館学的研究

展示事業に関するもの

- 1 科学や自然領域の効果的な展示技術に関する研究
- 2 プラネタリウムの技術と運営の研究
- 3 全天周映像の撮影編集システムの開発

普及教育事業に関するもの

- 1 市民各層のニーズに適合した行事の開発
- 2 友の会、ボランティア運営に関する研究
- 3 学校教育との関連、特に博物館展示の効果的利用ならびに児童生徒の科学応用力増進に関する研究

調査研究事業に関するもの

- 1 博物館刊行物の効果的な情報公開の研究

収集保管事業に関するもの

- 1 資料データベースの利用に関する研究
- 2 資料の収集と保管に関する研究

情報公開事業に関するもの

- 1 インターネットによる効果的な情報公開の研究

管理運営に関するもの

- 1 博物館の連携に関する研究
- 2 博物館の行事参加者の安全に関する研究
- 3 博物館実習の効果的企画・運用に関する研究

Ⅳ 「研究報告第 47 号」の発行

令和 5 年 7 月 1 日発行、部数 540 部

原 著

佐藤 卓・太田道人：
富山県に自然分布するキイチゴ属植物の分布の特徴
岩田朋文・桐山 哲・早瀬裕也：
富山県における 2021 年および 2022 年のツヤハダゴマダラカミキリ生息状況
布村 昇：
ウスイロハヤシワラジムシ（和名新称）*Lucasioides gigliotosi*（等脚目：ハヤシワラジムシ科）の中部・近畿地方からの記録と再記載
朴木英治・岩田朋文・藤田将人・吉岡 翼：
黒部川源流域周辺の池塘の水と懸濁粒子の起源
藤田将人・岩田朋文・吉岡 翼・清水海渡・太田道人：
富山市山岳域自然調査報告（2022）

短 報

増渕佳子・中野 俊：
立山山麓〔与四兵衛山〕の安山岩溶岩の岩石学的特徴と対比
岩田朋文：
富山・岐阜県境付近におけるキバネツノトンボの追加記録（2）
岩田朋文・井出哲哉：
富山県におけるアカギカメムシの追加記録
岩田朋文：
富山市の城南公園におけるウスバカマキリの確認例 2 題
岩田朋文：
富山県におけるツヤハダゴマダラカミキリの 2019 年以前の記録 6 題
岩田朋文・不破光大：
2022 年に確認された安田城跡（富山県富山市）の水生動物
吉岡 翼：
砂浜海岸で観察されたモグラ類の坑道と塚
清水海渡：
有峰湖周辺地域で確認したコウモリ類について
朴木英治・人見信行：
真川、湯川谷および常願寺川起点の水質
近藤秀作・林 忠史：
高感度ビデオカメラ 2 台を用いた流星の広視野観測
近藤秀作・中林みぎわ：
ネットワークカメラ ATOM CAM2 による流星観測

資料

平澤 聡:

富山県東部立山町に分布する下～中部中新統黒瀨谷層から産出した生痕化石群集

柏木健司・松本雄大:

富山県古生物研究会により収集された富山県産板鰓類化石の概要

増渕佳子:

富山湾における福德岡ノ場 2021 年噴火の軽石の漂着状況

二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・不破光大・岩田朋文:

富山県のトンボ (2022 年記録)

吉岡 翼:

富山市浜黒崎沿岸におけるホシフグの異常漂着

清水海渡・高畑 晃:

富山県の鳥類目録

南部久男・清水海渡:

富山市におけるツキノワグマの出没記録 (2021 年)

市川真史:

簡便で効果的な教具 磁石の力「見えるボックス」

V 執筆文書

1 学術論文

研究報告第 47 号に記載した論文を除く

* は査読付学術雑誌

- 5. 5: 清水海渡 (白石俊明らと共著): 富山県における哺乳類の記録 (2022 年). 富山の生物 62 号.
- 5. 5: 清水海渡 (南部久男らと共著): 富山市山田川流域の哺乳類. 富山の生物 62 号.
- 5.12: 岩田朋文 (田悟敏弘らと共著): 埼玉県飯能市におけるクナシリシジミガムシの記録. 寄せ蛾記 190 号.
- 6. 1: 岩田朋文・清水海渡: 佐渡島におけるマツヘリカメムシの初記録. 月刊むし 635 号.
- 6. 2: 岩田朋文 (山崎駿らと共著): 新潟県におけるオキナワイトアメンボの記録. 月刊むし 636 号.

- 6. 3: 太田道人 (吉田めぐみらと共著): 外来植物モニタリング調査. 令和 5 年度立山植生モニタリング調査成果報告書. 立山植生研究会.
- 6. 3: 岩田朋文 (高野季樹らと共著): 埼玉県内に生息する県絶滅危惧種クビボソコガシラミズムシの現状. ホシザキグリーン財団研究報告第 27 号.
- 6. 3: 岩田朋文 (岩田泰幸らと共著): 新潟県信濃川水系におけるケスジドロムシの生息状況と環境選好について. ホシザキグリーン財団研究報告第 27 号.

2 読み物

- 5. 8: 太田道人: 巻頭言 自然を大切に思う人が増えるように. 富山県自然保護協会報第 306 号.
- 5.11: 増渕佳子: 立山山麓で見る弥陀ヶ原火山の噴火の痕跡. ナチュラリスト広場 第 173 号.
- 5.11: 太田道人: 巻頭言 私は生物多様性のおかげで生きている. 富山県自然保護協会報第 307 号.
- 5.12: 近藤秀作: 富山市科学博物館 プラネタリウムリニューアルについて. 日本プラネタリウム協議会会誌 22 号.
- 6. 3: 清水海渡: 消えゆく技術と文化 野鳥の捕獲技術を例に. とやま民俗 101 号.

VI 学会などでの発表

氏名	開催日	演題	学会名(場所)
増 渕 佳 子 (横山 光らと共同発表)	5. 5.21	全国火山実験研究交流会の開催	日本地球惑星科学連合 2023 年大会
吉 岡 翼	5.10.14	プラネタリウムと形の科学：形を伝える場としての活用	第 95 回形の科学シンポジウム (科学博物館)
吉 岡 翼 (老月由美子と共同発表)	5.10.15	よりリアルな有孔虫あみぐるみを目指して	第 95 回形の科学シンポジウム (科学博物館)
吉 岡 翼 (松岡篤らと共同発表)	5.10.16	宇宙プランクトングループによる研究と普及活動の歩み	第 95 回形の科学シンポジウム (科学博物館)
増 渕 佳 子 (横山 光らと共同発表)	5.10.20	火山実験教材交流会の成果と課題	2023 年度日本火山学会秋季大会
岩 田 朋 文 (沢田研太と共同発表)	5.11.26	富山県各地で発見された外来種シタバニハゴロモ	令和 5 年度 富山県生物学会 研究発表会
市 川 真 史	6. 2.16	富山市ゆかりのノーベル賞受賞者コーナー展示	第 14 回全国理工系学芸員展示研究大会 (名古屋市科学館)

VII 科学研究費補助金による研究等

令和 5 年度は無し。

VIII 表彰

令和 5 年度「東レ理科教育賞奨励作」市川真史, 「見えるボックス」を用いた三次元的な磁力線の変化の可視化. 公益財団法人東レ科学振興会.

IX 国内の研修や学会などへの参加

参加者	開催日	研修題名	場 所
市 川 真 史	5. 5.20 ～ 5.21	令和 5 年度日本蜃気楼協議会総会・研究発表会	魚津埋没林博物館
宮 野 彩	5. 6.12 ～ 6.14	全国プラネタリウム大会 2023	ライフパーク倉敷科学センター
近 藤 秀 作	5. 9.20	日本天文学会秋季年会 天文教育フォーラム	オンライン参加
林 忠 史 近 藤 秀 作 宮 野 彩	5.10.10	令和 5 年度日本プラネタリウム協議会 (J P A) 北陸プラネタリウムワーキンググループ 第一回研修会	富山市科学博物館
清 水 海 渡	5.11. 1	全国科学館連携協議会 国内研修	オンライン参加
坂 井 奈 緒 子 清 水 海 渡 本 田 実 咲	5.11.11	日本海学推進機構主催 日本海学講座「日本海がもたらす北陸の多様な降水」	オンライン参加
宮 野 彩	5.11.27 ～ 11.29	JGSS2023(日本ジャイアントスクリーン協会フィルムフェスティバル)	さいたま市宇宙劇場
市 川 真 史 岩 田 朋 文	5.11.28	災害レジリエンス共創研究会主催 セミナー「雪がもたらす「負の側面」と「正の側面」を総合的に評価する—雪資源ポテンシャルという考えの提案—」	オンライン参加

岩田朋文	5.12. 4	立山研究会	富山大学
坂井奈緒子 清水海渡 吉岡翼	6. 1.20	生物科学学会連合主催 公開シンポジウム「現代のナチュラルヒストリー研究その挑戦と課題」	オンライン参加
宮野彩	6. 2.19 ～ 2.21	全国プラネタリウム研修会 2023	コスモプラネタリウム渋谷
藤田将人 岩田朋文	6. 2.20	中部山岳国立公園における気候変動に関するコンソーシアム	オンライン参加
藤田将人 岩田朋文	6. 2.21 ～ 2.22	令和5年度第2回全国科学博物館協議会理事会・総会及び第31回研究発表大会	滋賀県立琵琶湖博物館
増渕佳子	6. 3. 2 ～ 3. 3	全国火山実験研究交流会	板橋区立教育科学館
学芸課職員	6. 3. 6	日本博物館協会令和5年度第2回研究協議会「これからの『対話と連携の博物館』1博物館と図書館 ML(A) 連携の可能性」	オンライン参加

X 研究発表会等

1 科学セミナー

館内職員と登録ボランティア向け研修として実施した。

参加人数：18人（うちボランティア4人）

発表者	開催日	タイトル
岩田朋文	6. 1.18	富山県の外来昆虫
清水海渡	6. 1.18	トキのくらす佐渡
藤田将人	6. 1.18	千葉県地質

2 研究発表会

日時：令和6年3月10日 13:30～15:30

場所：多目的学習室

参加人数：37人

発表者	タイトル
藤田将人 吉岡翼	令和5年度 富山市山岳域自然調査報告
岩田朋文	飛騨山脈高天原および竜晶池で2023年に確認されたトンボ類～22年振りに再確認されたムツアカネ～
岩田朋文	富山県におけるクマゼミの記録整理
清水海渡	有峰で2023年に確認したコウモリ
清水海渡 高畑晃	湯浅純孝鳥類標本コレクションについて

3 展示事業

特別展を1回、企画展を7回（うち1つは令和4年度事業）、ロビー展を13回（うち1つは令和4年度事業）開催した。

I 常設展示

■ エントランス展示

氷河時代の富山に生息していたナウマンゾウの実物大模型と骨格標本を比較展示している。

■ とやま・時間のたび

富山の地形が形成されてきた歴史を地質年代順に紹介している。また、富山市大山地域で発見された日本最大の恐竜足跡化石露頭面についても展示している。

■ とやま・空間のたび

富山県の地形の特徴である標高3,000mの立山連峰から水深1,000mの富山湾までを高山、山地、河川、丘陵・平野、海の5つのゾーンに分け、それぞれの自然の特徴や人との関わりについて展示している。

■ 宇宙へのたび

太陽系の惑星や隕石の特徴を体感的に学べる展示をしている。また、宇宙望遠鏡が撮影した天体映像コーナーや、最新の星空情報などを紹介している。

■ おもしろ実験ひろば

楽しい実験装置をとおして、理工的な側面から科学の面白さが体験できる展示を行っている。

■ とやま・ノーベル賞受賞者コーナー

富山市にゆかりのある4人のノーベル賞受賞者、田中耕一氏、利根川進氏、梶田隆章氏、本庶佑氏の研究を紹介している。

■ ジュニア科学賞・とやまコーナー

ジュニア科学賞の受賞者とその研究内容を紹介するパネルを展示し、毎年更新している。令和6年2月16日からは、第21回の受賞者3名を紹介している。

II 特別展

■ 大集合！富山の鳥たち

当館に収蔵されている200点以上の鳥類剥製と鮮明な生態写真を展示し、富山の多様な環境に合わせて暮らす鳥たちの生態や体の作りを紹介した。期間中の来場者は22,481人。

期間： 令和5年7月15日(土)～9月3日(日)

場所： 2階特別展示室

主催： 富山市科学博物館

協力： 富山市ファミリーパーク、東京動物園協会、相模原市立博物館

担当： 清水海渡、高畑 晃



III 企画展

■ ぐるぐる—自然界のかたち—

渦巻銀河、台風、DNAなど、自然界の渦巻き模様やらせん構造のものを展示し、その構造、規則性、意味を解説した。

期間： 令和5年3月4日(土)～5月21日(日)
場所： 2階特別展示室
主催： 富山市科学博物館
担当： 岩田朋文、増渕佳子

■ 令和4年度富山県科学展覧会入賞作品展—
アイデア浮かぶ科学の広場—

令和4年度の富山県科学展覧会で入賞した、
富山市内の小中学校の児童生徒の作品32点を
展示した。

期間： 令和5年6月3日(土)～7月2日(日)
場所： 2階特別展示室
主催： 富山市科学博物館
担当： 森山千賀子、高畑 晃

■ 第44回 SSP展「自然を楽しむ科学の眼 2023-
2024」富山展

日本自然科学写真協会（SSP）の会員が撮影
した自然に関する写真70点と動画12作品を展
示した。同協会の巡回展示。

期間： 令和5年9月14日(木)～10月11日(水)
場所： 2階特別展示室
主催： 富山市科学博物館
協力： 一般社団法人日本自然科学写真協会
担当： 増渕佳子、太田道人



■ 第82回「富山県科学展覧会」

県内の児童・生徒が取り組んだ科学研究から、
優秀作品96点を展示した。

期間： 令和5年10月19日(木)～10月23日(月)
場所： 2階特別展示室・1階多目的学習室
主催： 公益社団法人 富山県教育会、富山県
理科教育振興会
担当： 高畑 晃、森山千賀子

■ 近代プラネタリウム誕生 100周年

-The Planetarium Story-

当館の昔の投映機の部品や全番組ポスターを

はじめ、天球儀や文献などを展示し、プラネタ
リウムの歴史を紹介した。

期間： 令和5年11月1日(水)～12月13日(水)
場所： 2階特別展示室
主催： 富山市科学博物館
担当： 近藤秀作、宮野 彩、林 忠史



■ 第31回「私の身近な自然展」

身近な自然への驚きや感動を絵と文で表現し
た市内小学生の作品を募集し、255点の作品を
展示した。自然への関心を高め、豊かな感性を
育むことを目的とした。

期間： 令和5年12月23日(土)～令和6年2月18日(日)
場所： 2階特別展示室
主催： 富山市科学博物館
担当： 高畑 晃、森山千賀子

■ 富山市科学博物館・富山県立山カルデラ砂防
博物館共同企画展「立山さんろく 自然の魅力」

日本一の落差をもつ称名滝、“立山杉”の巨
樹群を育む美女平、方位磁石が狂う尖山など、
立山山麓部の自然観察場所とその魅力を紹介し
た。

期間： 令和6年3月2日(土)～5月19日(日)
場所： 2階特別展示室
主催： 富山市科学博物館
担当： 太田道人、清水海渡、本田実咲



IV ロビー展示

■水の惑星－星の旅シリーズ－写真展

プラネタリウム番組「水の惑星－星の旅シリーズ」の番組製作者 KAGAYA 氏が世界各地で撮影した星景写真などを展示した。

期間： 令和5年3月16日(木)～令和6年2月25日(日)

場所： 3階ロビー

主催： 富山市科学博物館

担当： 近藤秀作

■富山と世界のギフチョウたち

日本固有種であるギフチョウとその近縁種の標本、写真、解説パネルを展示した。

期間： 令和5年4月8日(土)～5月21日(日)

場所： 2階ロビー

主催： 富山市科学博物館

担当： 岩田朋文

■流星刀

県内で発見された鉄いん石を材料に作られた珍しい日本刀である流星刀を展示した。

期間： 令和5年4月29日(土)～5月28日(日)

場所： 1階ロビー

主催： 富山市科学博物館

担当： 林 忠史、近藤秀作、宮野 彩

■流れ星を探して

流れ星や流星群に関する解説パネルや動画、また隕石の実物標本を展示した。

期間： 令和5年5月27日(土)～7月9日(日)

場所： 2階ロビー

主催： 富山市科学博物館

担当： 近藤秀作、宮野 彩

■火星衛星サンプルリターンを目指して！

火星衛星サンプルリターン計画に関する解説パネルや記念パネルを展示したほか、ミッションの動画をモニターで上映した。

期間： 令和5年5月31日(水)～10月20日(金)

場所： 3階天文展示室

主催： 富山市科学博物館

担当： 近藤秀作、宮野 彩

■標本をつくってみよう

日頃の自然観察を一步深める標本づくりを勧めるもので、標本づくりの意義や手法をパネル及び実物標本で紹介した。

期間： 令和5年7月22日(土)～9月10日(日)

場所： 2階ロビー

主催： 富山市科学博物館

担当： 岩田朋文

■流星刀

県内で発見された鉄いん石を材料に作られた珍しい日本刀である流星刀を展示した。

期間： 令和5年9月23日(土)～10月29日(日)

場所： 1階ロビー

主催： 富山市科学博物館

担当： 林 忠史、近藤秀作、宮野 彩

■自然の中の不思議な形

かたちの科学シンポジウムの開催にあわせ、自然の中にある不思議な形について、パネルや標本、立体模型で紹介した。

期間： 令和5年9月30日(土)～10月29日(日)

場所： 2階ロビー

主催： 富山市科学博物館

担当： 吉岡 翼

■富大学生フォーミュラカーがやってきた

学生フォーミュラ車両を解説動画などと展示した。

期間： 令和5年10月17日(火)～10月30日(月)

場所： 1階ロビー

主催： 富山市科学博物館

協力： 公益社団法人自動車技術会中部支部、
富山大学フォーミュラプロジェクト

担当： 市川真史

■ばっさりスケスケ！CTで見てみた展

身近な食品や家電、博物館の標本をX線CT装置で撮影し、可視光では見ることのできない立体構造をパネル展示で紹介した。

期間： 令和5年11月11日(土)～12月10日(日)

場所： 2階ロビー

主催： 富山市科学博物館

担当： 吉岡 翼

■えとの動物－たつ－

令和6年の干支「たつ」にちなみ、龍の名のつく動物・植物・貝などを紹介した。

期間： 令和5年12月16日(土)～令和6年1月21日(日)

場所： 2階ロビー

主催： 富山市科学博物館

担当： 清水海渡



■富山県ナチュラリスト協会写真展

県ナチュラリスト協会の会員が撮影した自然の魅力伝える写真 23 点を展示した。

期間： 令和6年1月27日(土)～2月12日(月)

場所： 2階ロビー

主催： 富山市科学博物館

協力： 富山県ナチュラリスト協会

担当： 清水海渡

■能登半島地震 被害調査プロジェクト

能登半島地震の身の回りの被害の実態を明らかにし、記録として残すため、来館者に用紙で報告していただく展示コーナーを設置した。

期間： 令和6年2月17日(土)～7月15日(月)

場所： 2階ロビー

主催： 富山市科学博物館

担当： 増渕佳子



V その他

■展示オリエンテーリング

展示物を見るポイントを示し、来館者が楽しみながら館内を順に回ることができるように、3種類のクイズ形式のシートおよび解説シートを設置した。

期間： 令和5年4月1日(土)～令和6年3月31日(日)

場所： 1階ロビー

主催： 富山市科学博物館

担当： 森山千賀子

■質問掲示板「自然や科学のこと、何でも聞いてみるがですけど」

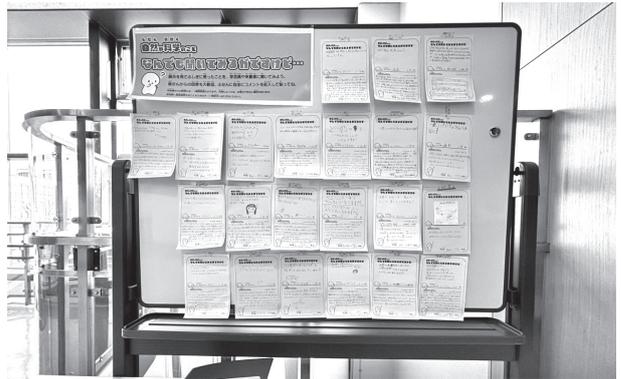
来館者が自然や科学についての質問を記入した用紙を掲示板に貼り、学芸員や来館者が回答することでコミュニケーションを図った。

期間： 令和5年6月8日(木)～令和6年3月31日(日)

場所： 2階ロビー

主催： 富山市科学博物館

担当： 増渕佳子



4 資料収集事業

郷土の自然に関する総合的な理解を深めるため、標本や資料を幅広く収集した。資料点数は令和5年度に3,673点増加し、合計517,090点となった。収集された標本は、分野毎に定められた規則に則って収蔵庫に配架しており、学術研究や展示、普及等に活用している。

I 標本の受け入れ

1 岩石分野 (合計) 514点

(1)購入標本		なし
(2)収集標本		なし
(3)寄贈標本		514点
鉱物・岩石標本	清水正明	440点
砂	金子一夫	1点
	関谷秀勝	7点
	中川達夫	6点
	中野俊	48点
流紋岩	金子一夫	1点
月長石流紋岩	澤田匠	1点
火山灰(御嶽山)	佐藤公	1点
ヒスイ	加護成子	1点
コモンオパール	中林みぎわ	2点
館員(増渕佳子、藤田将人)		6点

2 古生物分野 (合計) 227点

(1)購入標本		なし
(2)収集標本		16点
※うち恐竜事業収集標本		16点
(3)寄贈標本		211点
中生代植物化石	酒井佑輔	10点
新生代貝類化石	中野碧霞	200点
新生代貝類化石	葉室俊和	1点

3 植物分野 (合計) 254点

(1)購入標本		なし
(2)収集標本		136点
(3)寄贈標本		118点
クロチク花	米澤真理子	1点
フトリュウビゴケ他	荒木健	20点
ウチワゴケ他	俵京子	2点
シャグマハギ他	満保清憲	6点
メグスリノキ果実	亀村兼介	1点
シラビソ他	杉田久志	13点
館員(太田道人、坂井奈緒子、清水海渡)		75点

4 昆虫分野 (合計) 521点

(1)購入標本		なし
(2)収集標本		211点
(3)寄贈標本		310点
ヨコヅナサシガメ	荒木健	1点
北陸地方産昆虫類	神尾大地	108点
ウスバカマキリとツヤハダゴマダラカミキリ	鳥越湊	2点
	布村昇	1点
ヒョウタンゴミムシ	根来尚	10点
エリザハンミョウ	井出哲哉	15点
マツヘリカメムシ	加藤治好	1点
マツヘリカメムシ	久保絹江	1点
マツヘリカメムシ	桐山哲	7点
ツヤハダゴマダラカミキリ	室崎皇一	2点
シタベニハゴロモ	小林慎	1点
アルキデスヒラタクワガタ	小澤知彦	5点
シタベニハゴロモ	新堀修	5点
シタベニハゴロモ	森山泰成	17点
シタベニハゴロモ他	森内健生	1点
ツヤハダゴマダラカミキリ	惣名実	1点
マツヘリカメムシ	早瀬裕也	8点
ツヤハダゴマダラカミキリ	霜鳥智也	10点
マツヘリカメムシ	中村斎太郎	1点
アカギカメムシ	中田政司	1点
クマゼミ	中林みぎわ	1点
ツヤハダゴマダラカミキリ	中林みぎわ	1点
ツヤハダゴマダラカミキリ	鈴木碧・恒	1点
シタベニハゴロモ他	澤田研太	35点
ツヤハダゴマダラカミキリ	木村知晴	5点
ツヤハダゴマダラカミキリ	古屋光朔	1点
館員(岩田朋文、本田実咲)		69点

5 無脊椎分野 (合計) 1,986点

(1)購入標本		なし
(2)収集標本		8点
(3)寄贈標本		1,978点
富山県子撫川無脊椎動物	布村昇	186点
等脚目及び端脚目甲殻類	布村昇	1,783点
石川県九十九湾産無脊椎動物	布村昇	4点

エチゴサトワラジムシ

布村昇 5点

8 化学分野

なし

6 脊椎動物分野 (合計) 170点

(1)購入標本	なし
(2)収集標本	18点
(3)寄贈標本	152点
県内外の鳥類哺乳類標本 館員(吉岡翼)	湯浅倭子 150点 2点

9 天文分野 (合計) 1点

(1)購入標本	なし
(2)収集標本	なし
(3)寄贈標本	1点
五分儀	堀田文代 1点

7 物理分野

なし

II 蔵書

1. 単行本

受入方法	R5年度増加数	累計
購入	58	4,708
寄贈・交換	120	9,610
合計	178	14,318

2. 雑誌

受入方法	R5年度増加数	累計	
購入	145	12,127	
寄贈	47	17,236	
交換	博物館関係・学会・大学・研究機関 国外の研究機関	609 24	40,412 6,714
合計	825	76,489	

III 収蔵標本数の推移(過去5年間分)

分野	年度					R5年度 増加数
	R1	R2	R3	R4	R5	
岩石	15,511	15,702	15,737	15,822	16,322	500
古生物	22,757	22,914	23,244	24,255	24,482	227
植物	124,628	126,310	126,516	127,471	127,725	254
昆虫	110,963	111,959	113,051	119,536	120,057	521
無脊椎動物	173,807	174,066	174,567	176,719	178,705	1,986
脊椎動物	46,639	46,678	47,516	48,973	49,143	170
物理	118	118	118	118	118	0
化学	482	482	482	482	482	0
天文	46	46	55	55	56	1
計	494,951	498,275	501,286	513,431	517,090	3,659

IV 標本等データベースのデータ数（令和6年3月現在）

分野	標本データ件数	うち、GBIF/S-Net 公開データ件数	
		データセット名	件数
岩石・鉱物	14,552	TOYA-R	0
古生物	15,410	TOYA-Fo	1,000
維管束植物	120,477	TOYA-Sp,Pt	106,509
コケ植物	7,717	TOYA-Br	4,402
大型菌類	2,149	TOYA-Fu	0
昆虫	43,792	TOYA-Ji	31,166
貝類	102,767	TOYA-Mo	85,972
無脊椎甲殻類	23,783	TOYA-Cr	16,233
その他	3,606	TOYA-Iv,Ar	1,960
脊椎動物	13,747	TOYA-Pi,Am	9,554
計	348,000		256,796

V 地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) へのデータ登録

地球上のほとんど全ての生物の分布情報が地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) によって整備されつつあり、インターネットを介して自由に検索できるようになっている。日本からは独立行政法人国立科学博物館・大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所が窓口となって国内の博物館・大学等に収蔵されている標本情報をとりまとめてアップロードしている。令和5年度は、当館から昆虫 1,000 件、植物 800 件の標本データを提供し、当館の公開標本データの総数は、256,796 件となった（上表）。データは GBIF の日本ノード JBIF (<https://www.gbif.org/ja>) とサイエンスミュージアムネット S-Net (<https://science-net.kahaku.go.jp/>) で検索することができ、分布図を表示することもできる。

VI 主な標本類貸し出し

貸出先	期間	品名	点数
富山県〔立山〕博物館	5. 8.24 ～ 5.11.15	イシイルカ頭骨	1
射水市立片口小学校	5.11.13 ～ 5.12. 3	人体骨格模型組み立てキット ツキノワグマ前腕骨格標本	2
糸魚川ジオパーク協議会 ジオサイトの魅力発信実行委員会	6. 2. 1 ～ 8. 3.31	黒部川花崗岩	3

VII 収蔵標本の閲覧

閲覧者	閲覧月	回数	閲覧資料
酒井 佑 輔	5.12	1	化石 富山県産植物化石
淵上 理 音	6. 2	2	岩石標本 300 種

VIII 害虫防除

1 くんじょうなど

	くんじょう			冷凍殺虫	使用防虫剤
	春期	秋期	標本専用		
日程	5. 5.22	5. 9. 6～7	5. 9. 8～14	随時	常時
場所	3階収蔵庫	3階収蔵庫、地下 (収蔵庫及び各部屋)	専門業者の くんじょう庫	-30℃の 冷凍庫 10日間	地下収蔵庫
薬剤	ミラクン GX	ブンガノン(地下収蔵庫)、 ミラクン GX	エキヒューム S	なし	ナフタレン、樟脳、 パラジクロロベンゼン

2 環境調査

	春期	秋期
日程	5. 4.18～5.22	5. 9. 7～10.11
場所	館内全域	
方法	粘着トラップ（虫害調査）、エアーサンプラー（菌害調査）	
結果	注意種チャタテムシ類が館内各所で散見された。ヤマトシロアリが荷解き場で1頭確認された。真菌は調査地点全域で多かった。	注意種チャタテムシ類が館内各所で散見された。ヤマトシロアリ2頭、ヒメカツオブシムシ幼虫1頭が2階展示室および別館多目的学習室で確認された。真菌は調査地点全域で多かった。
対策	チャタテムシ類は清掃や除湿を徹底する。ヤマトシロアリとヒメカツオブシムシは偶発的に館内へ侵入した個体と思われるが、侵入がさらに増えないよう、ドアの目張りなどを行う。真菌が多かった理由は不明であるが、物品のゾーニングによる真菌胞子の侵入防止と除湿を心掛ける。	

5 普及教育事業

市民の多様な学習要求に対応し、参加する人がそれぞれの興味をより深められるよう、館内外で多様な行事を開催した。行事のタイトル数は84、開催のべ日数は286日となった。オンライン授業を市内の小学校3校、中学校2校と計6回行った。

I 館単独で主催した行事（外部講師を依頼したものを含む）

1 館外での行事

(1) とやまの自然探検

野外に出かけて自然を感じ、科学的な見方を学ぶ場として実施した。毎回約30～50人の参加者に楽しんでいただいた。参加者からは「どのような質問にも答えてもらえる行事」と好評を博している。

参加人数：のべ195人（5回）

行事名	実施日	内 容（担当）	対 象	参加人数
カタクリとギフチョウの猿倉山	5. 4.9	里山を散策し、カタクリ群落で花を観察し、ギフチョウを捕獲してじっくりと解説した。（清水海渡、岩田朋文、太田道人、坂井奈緒子）	5才～一般	45
ヒスイ海岸の石ころ観察会	5. 6. 4	ヒスイ海岸で見られる多様な岩石とその特徴を紹介し、その後、自由にヒスイ探しや石拾いを楽しんだ。（増渕佳子、高畑 晃）	4才～一般	37
初夏の美女平	5. 5.21	ブナ林の新鮮な空気の中を歩き、植物や鳥、昆虫などを観察した。（岩田朋文、太田道人、坂井奈緒子、清水海渡）	小1～一般	35
昆虫採集に行こう！	5. 9.24	常願寺川河川敷で、網を使ってトンボやバッタを採集した。虫採り網の使い方や生息する昆虫について解説した。（岩田朋文、高畑 晃）	小1～一般	48
アキグミ実る常願寺川	5.10.30	直前に近くでクマが目撃されたことから、行事を中止した。（坂井奈緒子、太田道人）	4才～一般	-
野鳥の声を聞きに行こう！	6. 3.24	呉羽山公園・都市緑化植物園で、春にさえずる野鳥の観察をした。16種の鳥を観察し、その特徴や生態を解説した。（清水海渡、高畑 晃）	小1～一般	30

2 館内での行事

(1) サイエンスライブ

展示や標本の解説、時節にあわせた生き物の紹介、物理あるいは地学に関する実験演示など、観覧者が科学に対する興味と関心をもつことを目的として実施した。

実施日：土日祝日の 10:30～、14:00～（各回 15 分程度；のべ 107 日）

場所：休憩室、2 階ロビー、多目的学習室、城南公園

参加人数：のべ 4,775 人

タイトル	実施日	内容（担当）	参加人数
解説！富山の恐竜化石	5. 4. 1		20
	5. 4. 2		42
	5. 7.17		57
	5. 9.18	富山県から発見された恐竜の足跡化石などを解説した。 （藤田将人）	80
	5.11.25		60
	5.11.26		40
	6. 3.16		28
6. 3.17	62		
解説！富山にいたゾウ	5. 6.10		26
	5. 6.11	富山に昔生きていたゾウについて解説した。 （藤田将人）	46
	6. 1.20		30
	6. 1.21		44
体験！砂鉄であそぼう	5. 4. 8	富山市内の海岸で採取できる砂鉄を使って、磁石で動く スライムを作った。（増渕佳子）	49
	5. 4. 9		56
実験！火山噴火	5. 5.20	重曹とクエン酸を使い、地下のマグマが発泡することで 噴火が起こることを実験により紹介した。（増渕佳子）	53
	5. 5.21		72
	5.11.23		65
工作！鉱物のかたち	5. 7.29	形が特徴的な鉱物（黄鉄鉱・方解石・蛍石）を観察し、 同じ形のペーパークラフトを楽しんだ。（増渕佳子）	60
	5. 7.30		70
体験！ヒスイの探し方	5. 9.23	ヒスイの見分け方や特徴を紹介した。（増渕佳子）	61
	5. 9.24		56
観察！光る石	6. 1.27	紫外線ライトを用い、蛍光鉱物や身の回りのものを観察 した。（増渕佳子）	65
	6. 1.28		88
解説！			
企画展「立山さんろく自 然の魅力～岩石編～」	6. 3. 9	企画展の展示解説として、立山さんろくにある山やその 地形について紹介した。（増渕佳子）	56
	6. 3.10		48
観察！春の花を見よう	5. 4.15	公園に咲いている草花のつくりを観察した。（坂井奈緒 子）	19
	5. 4.16		28
	5. 5. 3		24
	5. 5. 4		14
観察！公園の木めぐり	5. 8. 5	実がなっている木を中心に、名前と特徴を紹介した。（坂 井奈緒子）	16
	5. 8. 6		31

解説！公園の木の実	5. 9.30	木の実を見つけてもらい、種子の分散のしかたについて	15
	5.10. 1	紹介した。(坂井奈緒子)	16
解説！とぶタネ！	5.12. 9	飛ぶタネの実物を紹介し、折り紙で模型をつくり、それ	14
	5.12.10	ぞれの飛び方を試した。(坂井奈緒子)	40
解説！ワカメは何色？	6. 2.17	海の中に生えるワカメなどの海藻について実験をまじえて	35
	6. 2.18	解説した。(坂井奈緒子)	38
解説！ギフチョウ	5. 4.22	地球上で日本にしかいないギフチョウが富山にはたくさん	28
	5. 4.23	いる。その魅力を標本や写真で紹介した。(岩田朋文)	21
解説！立山の昆虫	5. 6.17	ミヤマモンキチョウなど、立山らしいチョウの写真を交え	28
	5. 6.18	ながら紹介した。(岩田朋文)	26
解説！富山の外来昆虫	5. 8.12	人間が運んできたために富山にすみ始めた昆虫を紹介し	46
	5. 8.13	た。(岩田朋文)	49
解説！富山のスズメバチ	5. 9. 9	秋に個体数が増えるスズメバチの種類や生態について解	52
	5. 9.10	説した。(岩田朋文)	47
解説！富山のカマキリ	5.10.21	富山県にすむさまざまな種類のカマキリを写真などで紹	66
	5.10.22	介した。(岩田朋文)	30
解説！富山のトンボ	6. 1.13	富山県のトンボ類の特徴やトピックスを紹介した。	21
	6. 1.14	(岩田朋文)	23
解説！かくれる昆虫にせる昆虫	6. 2.12	風景にとけこんだり有毒昆虫に似せたりして、敵から食べられないよう工夫する昆虫を紹介した。(岩田朋文)	54
解説！			
企画展「立山さんろく自然の魅力～昆虫編～」	6. 3.23	企画展の展示解説として、立山さんろくの豊かな森にす	35
	6. 3.24	む昆虫について紹介した。(岩田朋文)	21
解説！富山県の化石	5. 4.29	富山県で見つかる化石について紹介した。(吉岡 翼)	52
	5. 4.30		45
解説！海辺の貝殻	5. 6.24	富山の海辺で見つかる貝について、展示を見ながら解説	28
	5. 6.25		した。(吉岡 翼)
実験！石けん古生物学	5. 8.19	きれいな化石が見つかるノジュールという石のでき方と石	95
	5. 8.20		けんの意外な関係を実験を通して紹介した。(吉岡 翼)

光の手品!?	5.10.28		31
偏光のはなし	5.10.29	偏光という光の不思議な現象について実験を交えながら	39
	6. 3. 2	解説した。(吉岡 翼)	69
	6. 3. 3		51
体験! 石材から化石を見 つけよう	6. 1. 6	ビルの壁などに使われている石材から化石を探した。(吉	60
	6. 1. 7	岡 翼)	60
工作! ふわとびコイノボリ	5. 5. 5	ふわっと飛ぶコイノボリ型の飛行機を折り紙で作った。 (市川真史)	103
解説! 体の中の輪切りが 見えるCTのしくみ	5. 7. 1		29
	5. 7. 2	体の断面を撮影できるX線CTスキャンの仕組みをパズ ルや模型を使って解説した。(市川真史)	58
	5.11.18		39
	5.11.19		61
解説! 電磁石とリニア モータ	6. 2.10	展示装置を使って電磁石の性質を紹介し、リニアモータ が動くしくみを赤青メガネを使い解説した。 (市川真史)	55
	6. 2.11		70
観察! 公園の花	5. 5. 6	雑草の花と木の花を、ちょっとだけ詳しく観察した。(太	31
	5. 5. 7	田道人)	雨天中止
解説! 城南公園の木	5. 6. 3	公園で目立っている木の名前とその特徴を説明した。(太	19
	5. 6. 4	田道人)	15
観察! 公園の木の名前	5. 7.15	博物館前の公園で、目立っている木の名前とその特徴を	6
	5. 7.16	紹介した。(太田道人)	12
解説! 富山の木のはなし	5. 8.11	公園の主な木の名前やどんぐりの芽生えなどを観察 した。(太田道人)	16
解説! 公園の木の实	5.10. 7	公園で木の実をさがし、その形の意味について、木	17
	5.10. 8	の生き方と合わせて解説した。(太田道人)	13
解説! 紅葉のひみつ	5.12.16	紅葉している木々の名前や落ち葉の役割について解	22
	5.12.17	説した。(太田道人)	雨天中止
解説! 杉の切り株物語	6. 2.25	切り株に生えた木の枝が、Uの字にカールしている 理由など、木の形と積雪との関係を解説した。(太田 道人)	59
解説! 企画展「立山さんろ く自然の魅力~植物編~」	6. 3.20	タテヤマスギの大木に枝分かれが多い理由や立山山 麓の花たちを紹介した。(太田道人)	37
解説! 富山のへび	5. 5.13		65
	5. 5.14	富山に暮らすへびについて解説した。(清水海渡)	80

解説！特別展「大集合！富山の鳥たち」	5. 7.22		70
	5. 7.23	開催中の特別展「大集合！富山の鳥たち」を解説した。	16
	5. 9. 2	(清水海渡)	60
	5. 9. 3		45
解説！富山のコウモリ	5.11.11	富山にくらすコウモリについて、解説した。	40
	5.11.12	(清水海渡)	40
解説！富山のモグラ	6. 1. 8	富山にくらすモグラについて解説した。(清水海渡)	60
解説！企画展「立山さんろく自然の魅力～動物編～」	6. 3.31	企画展に展示されている動物について解説した。(清水海渡)	30
実験！ 水性ペンのふしぎアート	5. 7. 8		83
	5. 7. 9	ペーパークロマトグラフィのしくみで水性ペンの色	79
	5.12.23	を分け、きれいな模様を作った。(本田実咲)	31
	5.12.24		68
実験！ムラサキキャベツの色水あそび	5. 9.16	紫キャベツの色水が酸性、アルカリ性で変化することを実験で確かめた。(本田実咲)	46
	5. 9.17		68
実験！ ものを浮かせる力！	5.10.14	ものが浮いたり沈んだりする実験をした。(本田実咲)	46
	5.10.15		82
実験！うずのふしぎ	6. 2. 3	ペットボトルでトルネードをおこした。(本田実咲)	65
	6. 2. 4		57
実験！化学反応で風船をふくらませよう	6. 3.30	クエン酸と重そうで風船をふくらませる実験を演示した。(本田実咲)	68
解説！ プラネタリウムの歴史	5.11. 4		32
	5.11. 5	開催中の企画展「近代プラネタリウム誕生 100 周年	14
	5.12. 2	—The Planetarium Story —」を解説した。(近藤秀作)	26
	5.12. 3		22

(2) 科学教室

身近にある材料や事象から科学のおもしろさを体験してもらおう場として実施した。

参加人数：のべ 123 人 (6 回)

行事名	実施日	内 容 (担当)	対 象	参加人数
小さなコケ植物の観察会	5. 6.11	公園で生育している様子を観察した後、顕微鏡で葉や細胞等を観察し、コケ植物の特徴を学んだ。(坂井奈緒子)	小 4 ～一般	7
ピカピカ泥だんごを作ろう！	5. 6.18	天然の土を使って、表面がピカピカでまん丸の泥団子を作ること、粘土の性質を学んだ。(増 佳子、高畑 晃)	小 4 ～一般	18

ざっそうのかかく	5. 7.23	公園で採集した雑草の名前を絵合わせで調べた後、メヒシバの強さのひみつについて考えた。(太田道人)	小学生とその家族	33
モーターをつくろう	5.12.17	モーターを手作りしながら、その動く仕組みについて理解を深めた。(市川真史)	小4～6年	21
貝殻でアクセサリーを作ろう	6. 1.21	貝類について紹介し、ナミマガシワなどの貝殻を使ってストラップとブローチを作った。(吉岡 翼)	小4～一般	17
どんぶり de プラネタリウム	6. 2.12	発泡スチロール製のどんぶりの内側に描いた絵をプラネタリウムドームいっぱい投映して楽しんだ。協力：富山大学芸術文化学部辻合研究室。(近藤秀作・宮野 彩)	小学生～一般	27

(3) 講演会

行事名	実施日	内 容 (担当)	対 象	参加人数
特別展関連イベント 講演会「ライチョウの暮らす立山」	5. 7.30	富山を代表する高山である立山の鳥について講演をいただいた：富山雷鳥研究会 松田勉氏 (清水海渡・高畑 晃)	一般	40
先生、教えて！能登半島地震と富山の活断層	6. 3.31	地震地質学を専門とし、地震の解説活動や防災啓発に取り組まれている富山大学名誉教授 竹内 章氏を招き、能登半島地震や富山県内の活断層について話を伺った。(増淵佳子)	一般	51

(4) 星空観察会

① 定期観察会

天体の観察をととして宇宙への興味と理解を深めるため、天体望遠鏡や双眼鏡を用いた観察会を行った。COVID-19 拡大防止対策として、6月までは開催時間を40分に短縮した2部構成、定員25人としていたが、7月以降は定員30人、10月以降は2部構成をやめ自由参加とした。曇天等の時には天文現象について館内で解説会を行った。(担当：近藤秀作、宮野 彩、林 忠史、石坂卓也、森山千賀子、寺崎佑哉)

実 施 日：毎週土曜日 (50日、79回)

時 間：4/1～9/30 1部 19:30～20:10 2部 20:20～21:00

10/7～2/24 18:30～20:00

3/2～3/30 19:30～21:00

場 所：城南公園、休憩室

参加人数：883人

月	日	参加人数 1部/2部	天候	曇天時の解説の内容	月	日	参加人数	天候	曇天時の解説の内容
4月	1	5/15	晴	金星・水星 北極星	10月	7	4	雨	秋の四辺形 木星・土星
	8	2/8	雨			14	19	曇	
	15	0/2	雨			21	7	曇	
	22	13/8	晴			28	10	晴	
	29	4/4	曇		11月	4	17	曇	カシオペヤ座と 北極星
5月	6	12/2	雨	11		2	曇		
	13	2/0	雨	18		2	雨		
	20	7/2	曇	25		2	曇		
	27	21/6	曇						

6月	3	14/5	晴	時の記念日 夏至	12月	2	18	晴	ふたご座流星群
	10	13/2	曇			9	30	曇	
	17	13/11	晴			16	0	雨	
	24	7/4	曇			23	0	曇	
7月	1	0/8	雨	金星・火星 七夕	1月	6	10	雨	りゅう座
	8	0/2	雨			13	2	雪	ぎょしゃ座
	15	1/7	曇			20	7	雨	冬のダイヤモンド
	22	28/20	晴			27	7	曇	
	29	19/28	曇			3	2	曇	
8月	5	29/34	晴	スーパームーン	2月	10	2	雨	富山の星の和名
	12	23/32	晴			17	42	晴	動物の星座
	19	26/32	曇			24	24	晴	
	26	20/26	雨			2	3	晴	
9月	2	7/11	晴	土星 月	3月	9	2	雪	ふたご座
	9	2/2	曇			16	41	晴	水星、金星
	16	18/6	曇			23	7	晴	
	23	19/5	曇			30	20	曇	
	30	10/6	雨						

② 特別観察会

話題の天文現象等に合わせた観察会を実施した。(担当:近藤秀作、宮野 彩、林 忠史、石坂卓也、森山千賀子、寺崎佑哉)

場 所:城南公園、休憩室

参加人数:125人(3タイトル、3日、6回)

行事名	実施日	時 間	内 容	人数	天候
大型連休対応	5.5.5	19:30～20:10 20:20～21:00	春に見られる天体の観察のほか、見えている星空など解説した。	13 2	曇
七夕の星を見よう	5.7.7	19:30～20:10 20:20～21:00	七夕や夏の大三角など夏の星座の観察と解説を行った。	21 27	曇
中秋の名月を見よう	5.9.29	19:30～20:10 20:20～21:00	月や土星などの観察とお月見の風習などについて紹介した。	32 30	晴

(5) ボランティアによるイベント

① 科学絵本の読み聞かせ

ボランティア有志により、絵本の内容に合わせた簡単な実験や観察をセットにした科学絵本の読み聞かせを行った。(担当:増渕佳子)

実 施 日:令和5年8月18日(金)、8月25日(金)、8月27日(日)、10月15日(日)、
令和6年3月31日(日)

場 所:2階ロビー、展示室

対 象:観覧者

参加人数:のべ59人

(6) 夏休みの自由研究へのアドバイス

① 自由研究のすすめ方相談会

自由研究のテーマ設定や課題に対する科学的なアプローチ方法についてアドバイスを行った。どの分野にもまんべんなく質問があったが、具体的な実験方法の相談よりも、漠然とした興味や関心事をどうやって自由研究に結びつけたらよいかといった相談が多かった。

実 施 日:令和5年7月の土・日・祝日(のべ11日間)

場 所：図書・質問コーナー

受付件数：37 件

担当学芸員：吉岡 翼、清水海渡、坂井奈緒子、林 忠史、藤田将人、市川真史、増渕佳子、岩田朋文、
近藤秀作、宮野 彩、太田道人、本田実咲

② 標本の名前を調べる会&自由研究のまとめ方相談会

外部講師と学芸員が各々の専門分野に関する自由研究の質問・相談に対応した。どの学年・分野にも隔たりなく相談があり、ホームページを情報源として県外からや帰省中の来館者もあった。

実施日：令和5年8月13日（日）

場 所：多目的学習室

受付件数：12 件

外部講師〔敬称略〕：金子一夫、瀧本和敏、山崎貴博、布村 昇、澤田研太、高山茂樹

担当学芸員：吉岡 翼、清水海渡、坂井奈緒子、林 忠史、藤田将人、市川真史、増渕佳子、岩田朋文、
近藤秀作、宮野 彩、太田道人、本田実咲

(7) 夏休みクイズラリー

展示室の各所に置かれたクイズに答えながら展示を深く観察することを目的として実施した。子ども向けの「がんばれライ太コース」と一般向けの「いくぞ！ライじいコース」を行った。（担当：本田実咲、吉岡 翼）

実施日：令和5年7月25日（火）～8月25日（金）の平日（のべ23日間）

場 所：展示室

参加人数：1,559 人（がんばれライ太コース 1267 人、いくぞ！ライじいコース 292 人）

(8) サイエンスライブまつり

学芸員によるサイエンスライブ等を集中的に実施した。（担当：岩田朋文）

日 時：令和5年11月3日（金）10：30～15：45

場 所：多目的学習室、城南公園

参加人数：のべ1,270 人

II 他機関・団体と共同で開催した行事

1 館外での行事

(1) 科学教室「气象台へ行こう～天気の実験と予報のしごと～」

气象台の仕事を学び、実験や観察をとおして気象への理解を含めた。当館からは青空と夕日の仕組み模型と遠くの山が青く見えるしくみ模型を出展した。（担当：市川真史）

実施日：令和5年7月26日（水）（午前と午後の2回実施）

場 所：富山地方气象台

対 象：小学4～6年生

主 催：富山地方气象台

協 力：富山市科学博物館、魚津埋没林博物館、一般社団法人日本気象予報士会北陸支部、
富山県気候変動適応センター

後 援：一般財団法人日本気象協会、気象友の会

参加人数：98 人

2 館内での行事

(1) 高校生が作ったロボットとあそぼう

ラジコン操作や手こぎ発電機によってロボットを動かす体験をとおして科学技術への関心を高め、高校生と小学生が触れ合う場を創出した。(担当:市川真史)

実施日:令和5年5月27日(土)・28日(日)

場所:2階ロビー

対象:観覧者

協力:学校法人 不二越工業高等学校情報機械科

参加人数:806人

(2) 若田宇宙飛行士ミッション報告会パブリックビューイング

国際宇宙ステーションから地球へ帰還した若田宇宙飛行士による、ミッションの一般向け報告会の生配信を上映した。(担当:近藤秀作)

実施日:令和5年5月27日(土)14:00～16:15

場所:休憩室

配信主催:宇宙航空研究開発機構(JAXA)

参加人数:72人

(3) 親子で挑戦!ロボットプログラミング教室

レゴマインドストームEV3を使い、パソコンでプログラミングしてレゴロボットを動かし、コース上のブロックを取り除いて進む除雪プログラムの作成に挑戦することで、論理的思考力等を育んだ。(担当:市川真史)

実施日:令和5年6月10日(土)

場所:多目的学習室

対象:小学4～6年生の児童と保護者(2人一組)

協力:一般社団法人 富山県情報産業協会

参加人数:18人

(4) 人体を知ろう

富山市民病院の医師・放射線技師・看護師から模擬内視鏡手術やエコー、車椅子体験等をとおして医療とそれを支える科学について学び、人体への関心を高めた。当館学芸員はパルスオキシメータの仕組みを体験的に説明した。(担当:市川真史、岩田朋文)

実施日:令和5年7月22日(土)

場所:多目的学習室・車庫前スロープ

対象:小学5年生～中学3年生と保護者

協力:一般社団法人 富山県情報産業協会

参加人数:52人

(5) 実演!なぜ倒れない? バランスじょうずなロボットたち

自転車に乗る「ムラタセイサク君」と一輪車に乗る「ムラタセイコちゃん」、ボールの上で互いの距離を保ってダンスをする「村田製作所チアリーディング部」の実演を行い、それらの仕組みについて解説した。一日の回数と各回の定員を増やして実演した。(担当:市川真史、本田実咲)

実施日(人数):令和5年8月26日(土)・27日(日)(各日3回で計502人)

令和6年2月23日(金)・24日(土)(各日3回で計530人)

場所:多目的学習室

対象:観覧者

協力:株式会社富山村田製作所

参加人数:1,032人

(6) 第64回科学技術映像祭入選作品上映会

科学技術の普及と向上、自然への興味関心を呼び起こすことを目的として行った。

(担当: 石坂卓也)

期 間: 令和5年7月8日(土)～8月27日(日)

場 所: 休憩室

対 象: 観覧者

映像提供: 公益財団法人 日本科学技術振興財団内 科学技術映像祭事務局

参加人数: 1,617人

上映作品名	上映期間	観覧者数
コズミックフロント 流星群 星ふる夜の謎	5. 7. 8 ～ 7.14	148
NHK スペシャル 超進化論第1集 植物からのメッセージ～地球を彩る驚異の世界～	5. 7.15 ～ 7.21	173
雅なクモ ジョロウグモの一生	5. 7.22 ～ 7.28	161
コケの一生 命きらめく足元の森	5. 7.29 ～ 8. 4	210
ガリレオX サイボーグ昆虫 生命と機械を融合させる驚異の技術	5. 8. 5 ～ 8. 9	168
これからの世界を生き抜くために科学的に物事を 考えるということ。	5. 8.10 ～ 8.14	276
所さんの目がテン! 登山鉄道の科学	5. 8.15 ～ 8.20	269
SBC スペシャル 宇宙を夢見た高校生たち ～スペースバルーン・プロジェクトの1年～	5. 8.21 ～ 8.27	212

(7) 富大 学生フォーミュラカーがやってきた 運転席着座体験

富山大学フォーミュラプロジェクトの学生フォーミュラ車両の運転席に座って、スクリーンに流れるコース走行動画を見ながらハンドルを動かせる疑似運転体験を行い、ものづくりへの興味を高めた。(担当: 市川真史)

実 施 日: 令和5年10月28日(土)

場 所: 1階ロビー

対 象: 来館者

主 催: 公益社団法人 自動車技術会中部支部

協 力: 富山大学フォーミュラプロジェクト

参加人数: 162人

(8) ロボットカー・プログラミング

ロボットカーをScratchベースの環境でプログラムして操作し、クランク型のコースを進み、ゴール位置で止まる課題にチャレンジし、論理的思考力等を育んだ。(担当: 市川真史)

実 施 日: 令和5年10月28日(土)(午前と午後の2回実施)

場 所: 多目的学習室

対 象: 小学3～6年生

主 催: 公益社団法人 自動車技術会中部支部

参加人数: 25人

(9) 小型エンジン分解組立

50ccバイクのエンジンを分解して動く仕組みを調べ、組み付けして元に戻し、ものづくりの面白さを体験した。(担当: 市川真史)

実 施 日: 令和5年10月28日(土)(午前と午後の2回実施)

場 所: 科学教室

対 象：小学3～6年生
 主 催：公益社団法人自動車技術会中部支部
 参加人数：32人

(10) 実験講座「サイエンス オータムフェスタ with 富大生」

富山大学教育学部の授業の一環として、学生が企画した実験や体験イベントを行い、学生の科学教育指導能力の向上とともに子どもたちの理科への興味関心を高めた。(担当：市川真史、本田実咲)

実施日：令和5年10月9日(月)
 場 所：科学教室及び多目的学習室
 対 象：観覧者
 主 催：富山大学教育学部
 参加人数：178人

(11) 実験講座「ウィンターフェスタ ～冬だ！科学だ！実験だ！～ with 富大生」

富山大学教育学部の授業の一環として、学生が企画した実験や体験イベントを行い、学生の科学教育指導能力の向上と子どもたちの理科への興味関心を高めた。(担当：市川真史、本田実咲)

実施日：令和5年12月2日(土)、3日(日)
 場 所：2階ロビー及び多目的学習室
 対 象：観覧者
 主 催：富山大学教育学部
 参加人数：195人

Ⅲ レファレンス (質問への回答)

一般からの自然科学に関する質問に学芸員が回答するサービスを行っている。件数は724件であった。特に動物分野の質問が多かった。質問掲示板を設置したことに伴い、質問方法の分類項目の追加を行った。

1 質問分野別件数

質問分野		S54～R3 総数	S54～R3 年平均数	R4	R5	累 計
科学 博 物 館	植 物	9,688 (22.8)	225 (19.7)	117 (17.3)	120 (16.6)	9,925
	動 物	13,328 (31.3)	310 (27.1)	256 (37.9)	312 (43.1)	13,896
	地 学	4,394 (10.3)	102 (8.9)	141 (20.9)	165 (22.8)	4,700
	天文気象	4,988 (11.7)	116 (10.1)	98 (14.5)	69 (9.5)	5,155
	理 工	2,273 (5.3)	53 (4.6)	53 (7.8)	41 (5.7)	2,367
	そ の 他	845 (2.0)	20 (1.7)	11 (1.6)	17 (2.3)	873
天文台 (H9～R1)	天文・その他	7,007 (16.5)	319 (27.9)	—	—	7,007
合 計		42,523	1,145	676	724	43,923

() 内は割合%

2 質問方法別件数

質問方法	S54～R3	R4	R5	計
口 頭	18,182 (42.8)	343 (50.7)	346 (47.8)	18,871
電 話	19,638 (46.2)	178 (26.3)	149 (20.6)	19,965
文書・Fax	2,464 (5.8)	2 (0.3)	2 (0.3)	2,468
e-mail	1,640 (3.9)	111 (16.4)	74 (10.2)	1,825
HP(科学の質問Web受付)	599 (1.4)	36 (5.3)	65 (9.0)	700
オンライン授業	—	6 (0.9)	6 (0.8)	12

質問掲示板	-	-	82 (11.3)	82
合計	42,523	676	724	43,923

() 内は割合%

3 月別分野別件数

月	植物	動物	地学	天文・気象	理工	その他	計
4	11	15	6	2	1	0	35
5	10	34	5	7	1	1	58
6	15	43	17	14	4	1	94
7	10	26	14	2	10	0	62
8	20	51	24	4	7	2	108
9	14	42	16	4	2	2	80
10	15	25	17	10	5	3	75
11	4	14	7	6	3	0	34
12	8	16	14	2	3	1	44
1	5	14	14	9	1	2	45
2	5	12	13	3	3	2	38
3	3	20	18	6	1	3	51
合計	120	312	165	69	41	17	724

IV 移動ミニ博物館

動物・植物・地質・天文などに関する標本や写真、解説パネルからなる貸し出し展示セットを45セット用意している（詳細は当館ウェブサイト参照）。富山県内の小中学校に貸し出した。市内小中学校へは片道を当館が運搬しており、好評である。（担当：森山千賀子、高畑 晃）

1 貸出先・期間

(1) 貸し出し 13か所 34件

貸出先	小中学校	高等学校	幼稚園 保育所	博物館	市施設	図書館	教育 委員会	その他	合計
施設数	12	0	0	0	1	0	0	0	13
件数	32	0	0	0	2	0	0	0	34

(2) 貸し出し日数 756日

貸出期間	1週間以内	2週間以内	1か月以内	1か月超
件数	0	6	28	0

2 貸し出したセット・回数

No.	セット名	回数	No.	セット名	回数
2	化石～大昔の生き物を探そう～	1	33	バッタやコオロギとその仲間たち	2
4	水辺で探ろう トンボの世界	2	35	石ころから探る常願寺川の特徴	2
5	ところ変われば貝変わる	1	36	校庭の雑草	2
6	気候に応じた暮らし - 富山と沖縄 -	1	38	とやまの酸性雨	1
8	宇宙へのいざない	1	39	天体の動き	1
13	火山と地震	1	41	富山の昆虫	1
17	富山の名水	1	53	「ムシ」の体を比べてみよう	3
20	恐竜たちの足どりを追って	2	54	山と気象	1

22	野外で注意したい生き物	1
24	富山湾の生き物たち	2
26	立山の自然	2
27	雑木林の自然	1

55	木をくらべよう	1
56	マイクロファンタジー	1
57	比べてみよう！動物の骨	2
59	ひつつき虫	1

V 普及出版物

1 普及雑誌「とやまと自然」

富山の自然や最新の科学に関する話題の他、博物館活動に関する話題などを紹介する冊子を発行している。県内小中学校などへ配付した。当館ウェブサイトでも閲覧できる。各号 1,500 部発行。(編集: 太田道人、岩田朋文、本田実咲)

巻号 (通算)	発行日	掲載内容	執筆者
第 46 巻 夏の号(181号)	5. 7. 1	特別展「大集合！富山の鳥たち」展示 解説	清水海渡 高畑 晃
第 46 巻 秋の号(182号)	5.10. 1	立山周辺に生育する希少なコケ植物 リニューアル4代目プラネタリウムの紹介	坂井奈緒子 近藤秀作
第 46 巻 冬の号(183号)	6. 1. 5	露頭を見に出かけよう	金子一夫
第 47 巻 春の号(184号)	6. 3.31	赤い雪の秘密	中島智美

2 リーフレット「とやまサイエンストピックス」

身近な自然や科学に関する話題を紹介した。今年度より隔月で発行。各 2,100 部印刷し、市内小中学校や来館者に配布した。当館ウェブサイトでも公開している。(編集: 高畑 晃)

No.	発行月	題 名	執筆者
541	5. 4月	貝の右巻き・左巻き	吉 岡 翼
542	5. 6月	富山でも発見された外来種 シタバニハゴロ	岩 田 朋 文
543	5. 8月	かつては幻の動物 ニホンカモシカ	清 水 海 渡
544	5.10月	光学式投影機 100歳の誕生日	近 藤 秀 作
545	5.12月	ものの輪切り写真がとれる X線 CT装置	市 川 真 史
546	6. 2月	謎多き尖山	増 渕 佳 子

3 リーフレット「星空だより」

昨年度まで発行していた「富山で見える星空」と統合して、各季節に見られる星空や天文現象を紹介した。毎月発行。各 2,000 部印刷し、市内小中学校や来館者に配布した。(作成: 石坂卓也)

巻号	発行月	主な内容
No.149 2023年 4月号	5. 4月	金星と月がきれい！
No.150 2023年 5月号	5. 5月	兄様星と姉様星
No.151 2023年 6月号	5. 6月	月と金星と火星
No.152 2023年 7月号	5. 7月	七夕の星を探そう
No.153 2023年 8月号	5. 8月	流れ星を見てみよう (ペルセウス座流星群)
No.154 2023年 9月号	5. 9月	お月見しよう！

No.155	2023年10月号	5.10月	もうひとつのお月見
No.156	2023年11月号	5.11月	ペルセウスの化けクジラ退治
No.157	2023年12月号	5.12月	流れ星を見てみよう（ふたご座流星群）
No.158	2024年1月号	6.1月	双眼鏡で星を見てみよう
No.159	2024年2月号	6.2月	今年は1日多い年！
No.160	2024年3月号	6.3月	月と木星、すばるの接近

VI 学校による博物館利用への協力

1 教員のための博物館の日

博物館の学習資源の具体的な活用方法と楽しみ方を紹介し、理科の指導力を高め、博物館を身近に感じてもらうことを目的として実施した。8回目。実物を手にしての観察や五感を働かせる実験など、博物館の機能を活用した科学プログラムを提供した。定員20人。（担当：太田道人、清水海渡）

開催日：令和5年8月3日（木）

対象：富山県内の小学校に勤務する教諭および臨任講師

主催：富山市教育委員会（富山市科学博物館）

共催：独立行政法人 国立科学博物館、公益財団法人 日本博物館協会

後援：文部科学省

参加者数：12人

実施プログラム

タイトル	内容	担当
アサガオのつるはどっち回り？	つるの巻き方、葉の表と裏、果物の科学など、定義と形態比較の面白さを解説。	太田道人
永久磁石と電磁石が見える化しよう	簡単な電磁石や磁力見える化道具を作って、その特徴と授業でのコツを体験。	市川真史
作って納得！ツルピカまん丸泥だんごの秘密	表面がピカピカの泥だんごを作りながら、粘土の性質を解説。	増渕佳子
収蔵庫案内	博物館資料が収蔵されている様子を観察し、生物の多様さへの理解を深める。	太田道人 清水海渡
星の動きの理解と星座早見の使い方	晴天であったことから、星の観察体験や太陽観察の方法などを説明。	近藤秀作 宮野 彩
鳥のひみつ	鳥の特別展示を利用して、鳥の特徴、多様性、標本の重要性などを解説。	清水海渡 高畑 晃

2 博物館利用案内書の送付

学校向け資料「学校で博物館を利用しよう」（令和5年6月改訂）を富山市内の全小学校に配付し、館の活用方法等教育機能を紹介した。（担当：森山千賀子）

3 オンラインによる授業参加の開始

市内小・中学校を対象に、学芸員が授業にオンラインで参加し質問への回答や話をする事業を令和5年2月に開始した。校務支援システムC4thで案内（R5年2～4月、R6年1～3月）を行い、令和5年度は5件の申込みがあり、計6回の授業参加を行った。（担当：坂井奈緒子、藤田将人、吉岡 翼、高畑 晃、森山千賀子）

対応分野：地学・生物・物理・天文

申込み方法：館ホームページの受付フォームから教員が申込み

授業参加の実施

学校名 学年クラス	実施日	分野	内容
芝園小学校 4年4クラス合同	5. 7.18 5限目	天文	星や宇宙に関する質問に答えた。事前に調査した質問一覧から、特に多い星の誕生や星座などの質問について、クイズなどを交えながら解説を行った。 (担当：近藤秀作)
堀川小学校 5年3組	5.10.27 3限目	生物	昆虫分野の視点から生物多様性に関する学芸員の考えを述べた。児童から生物多様性に関する質問を受け、回答した。(担当：岩田朋文)
堀川南小学校 6年5クラス合同	6. 2. 6 6限目	地学・生物	授業前に移動ミニ博物館「立山の自然」を学校で展示し、児童から事前に寄せられた質問に対して、学芸員が解説を行った。(担当：増渕佳子・坂井奈緒子)
上滝中学校 2年1組、2組	6. 3.15 3限目、 4限目	生物	地球温暖化で増えている昆虫について、ナガサキアゲハとクマゼミを例に解説したほか、事前に生徒から寄せられた昆虫に関する質問に回答した。 (担当：岩田朋文)
八尾中学校 2年4クラス合同	6. 3.15	天文	太陽と月をテーマにした解説を行った。また、望遠鏡にカメラを取り付けて、リアルタイムの太陽の様子を中継しその様子を観察した。 (担当：近藤秀作・宮野 彩)

Ⅶ 令和5年度「SDGs-ESD 富山シンポジウム（意見交換会）」への参加

1月31日（水）、集合参加とオンライン参加による複合形態で開催された。当館は、オンラインで参加した。シンポジウムでは、小学校5校、中学校5校、関係団体がESD活動の発表や意見交換を行った。(担当：岩田朋文)

Ⅷ 市役所出前講座「科学博物館の展示と活動について」の実施

富山市が市民と行政との協働により市民主体のまちづくりを推奨する一環として行っている市役所出前講座のうち、博物館の展示と活動への理解を深めてもらう講座を用意していたが、令和5年度の申込みは0件であった。

6 プラネタリウム投影事業

令和5年3月16日(木)にプラネタリウムと3階天文展示室をリニューアルした直後の年度である。プラネタリウム観覧者数は、94,682人であった。

近代的なプラネタリウムが誕生して100年の年に当たることから、星兄による爆笑プラネタリウムショーやプラネタリウム100周年記念講演などの特別イベントを、日本プラネタリウム協議会(JPA)のプラネタリウム100周年記念事業の公認企画として、計6回実施した。

一般向け投影と学芸員による生解説投影「学芸員と星空さんぽ」では、令和5年3月16日～8月末まで、星空解説の前にリニューアルしたプラネタリウム投映機について紹介する約5分間の番組を上映した。また、令和5年10月～12月中旬まで、投影開始前にJPAが制作したプラネタリウム100周年記念動画を上映した。

I 一般向け投影

オリジナル制作の季節の星空紹介に続き、映像番組を投影した。

1 季節の星空紹介

映像番組の前に投影する約10分間の星空解説番組を6本制作した。当日の夜8時～9時に見える星空を紹介している。約2か月毎に更新し、時季にあわせた話題を毎回「学芸員のつぶやき」としてテロップで紹介した。ナレーションは職員と館ボランティアが担当した。

(担当：近藤秀作、宮野 彩、寺崎佑哉)

タイトル	期間
春の星空	5. 3.16 ～ 5. 5.31
春～初夏の星空	5. 6. 1 ～ 5. 7.17
夏の星空	5. 7.18 ～ 5. 9.29
秋の星空	5. 9.30 ～ 5.11.30
秋～冬の星空	5.12. 1 ～ 6. 1.15
冬の星空	6. 1.16 ～ 6. 3.15
春の星空	6. 3.16 ～ 6. 5.15

2 映像番組

- (1) 「水の惑星 星の旅シリーズ」(一般向け番組)
期 間：令和5年3月16日(木)～令和6年2月29日(木)
内 容：楽園地球から星空を望み、星の世界に水を探す旅から水の惑星地球を見つめ直す番組。
- (2) 「ダイナソー・サバイバル 恐竜たちの大進化」(子ども向け番組)
期 間：令和5年3月16日(木)～令和6年2月29日(木)
内 容：恐竜時代にタイムスリップし、恐竜の絶滅と進化の謎を解き明かす番組。
- (3) 「ハナビリウム ～花火って、なんであるの?～」(一般向け番組)
期 間：令和5年3月16日(木)～令和6年2月29日(木)
内 容：迫力ある360度の実写花火映像や400年以上にわたる花火文化と歴史を紹介する番組。

(4) 「まだ見ぬ宇宙へ」

期 間：令和5年10月1日(日)～令和6年9月30日(月)

内 容：地球を飛び立ち、宇宙を広く見渡しながら様々な天体を巡って宇宙の姿を紹介する番組。

(5) 「ゲゲゲの鬼太郎 河童のテラフォーミング」

期 間：令和6年3月1日(金)～令和7年2月28日(金)

内 容：宇宙飛行士を目指す河童とともに、訓練などをとおして火星の「テラフォーミング」について学ぶ番組。

(6) 「キトラ古墳壁画 天文図と中国星座の世界」

期 間：令和6年3月1日(金)～令和6年6月30日(日)

内 容：キトラ古墳の石室に描かれている天文図をとおして、古代中国の星座や天に関する思想について紹介する番組。



まだ見ぬ宇宙へ

(©「まだ見ぬ宇宙へ」製作委員会)



ゲゲゲの鬼太郎

～河童のテラフォーミング

(©水木プロ・東映アニメーション)



キトラ古墳壁画

天文図と中国星座の世界

(©文化庁、奈良文化財研究所)

3 生解説投影「学芸員と星空さんぽ」

(1) 学芸員と星空さんぽ

その日の星空や天文の話題などを学芸員が紹介する生解説投影を、リニューアル直後の毎日と土・日・祝に各1回行った。プラネタリウムリニューアル前までは、毎週日曜日のみに実施していたもの。(担当：近藤秀作、宮野 彩、中林みぎわ)

日 時：令和5年3月16日(木)～4月4日(火)の毎日と、毎週土・日曜日、祝日
16:00～16:45

(2) 学芸員と星空さんぽ特別編「祝！プラネタリウム誕生100周年」

近代的なプラネタリウム誕生100周年を記念し、特別投影を行った。学芸員2名による掛け合い形式で、クイズを交えながらプラネタリウムの歴史や投映機について解説、100年前の星空の再現などを行った。(担当：近藤秀作、宮野 彩)

日 時：令和5年10月21日(土) 16:00～16:45

参加人数：126人



II 幼児向け投影

星や七夕の物語への興味と関心を高めるため、保育所や幼稚園などの幼児団体を対象として、生解説を含む番組を投影した。投影後半は自主制作番組「たぬきのぼん、つきへゆく」を投影した。アンケート結果は14章を参照。



タイトル：たなばた

期 間：令和5年6月1日（木）～7月14日（金）

内 容：夏の星座と七夕の物語の紹介（生解説）、
「たぬきのぼん、つきへゆく」（映像番組）

対 象：保育所・幼稚園など予約団体

観覧状況：市内の92団体2,858人、市外の16団体562人、幼児団体以外2団体57人。

III 学習投影

小学校第4学年の天文学習内容の理解促進のため、学校団体向けの学習番組を投影した。なお、バスの手配の関係で、多くの学校は例年より1ヶ月ほど遅れての実施となった。アンケート結果は14章を参照。

期 間：令和5年9月15日（金）～12月15日（金）

内 容：月の動き、夏から冬の星座、方角による星の動きの違い、星の色の違いなどを解説。

対 象：市内の小学4年生（科学博物館の利用学習として来館）、予約団体等

観覧状況：市内小学校全64校のうち63団体3169人、市外の13団体682人。

なお市内小学校のうち1校はインフルエンザによる学年閉鎖のためキャンセル。

IV 特別投影

1 スペシャルプラネタリウム

特別展と連動したオリジナル解説番組、「熟睡プラネタリウム」、「CDコンサート」などの特別投影を実施した。

観覧人数：のべ750人

タイトル	実施日	時間	内容（担当）	人数
星空とCDコンサート ～ディズニーミュージック～	5. 8.26	16:00～16:45	ディズニーの曲とともに、星空や美しい映像を楽しんだ。（近藤秀作）	176
	5. 8.27			171
プラネでバードウォッチング！	5. 9.18	16:00～16:45	富山で見られる様々な渡りをする鳥について紹介した。 （近藤秀作、清水海渡、高畑 晃）	148
全国一斉熟睡プラネタリウム～プラネでやすまれ～	5.11.23	9:45～10:30	勤労感謝の日に合わせ、観覧者を眠りに誘う投影を行った。（近藤秀作、中林みぎわ）	60
		12:15～13:00		64
クリスマス	5.12.23	13:30～14:15	クリスマスの頃の星空やクリスマスツリーの頂にある星の意味などを紹介した。 （林 忠史）	68
		16:00～16:45		63

2 キッズプラネタリウム

幼児から小学校低学年を対象に、プラネタリウムに親しんでもらうための番組を投影した。「クリスマスのおほしさま」では、話を進める進行役とオリジナルキャラクターの声を当てる役の二人の掛け合い形式で話を進めたほか、一緒に歌を歌う演出などを行った。

観覧人数：のべ 531 人

タイトル	実施日	時間	内容（担当）	人数
たなばた	5. 7. 2	9:45 ～ 10:25 11:00 ～ 11:40	七夕の星の探し方や七夕の物語を紹介した後、自主製作番組「たぬきのぽん、つきへゆく」を投影した。（近藤秀作）	180 176
クリスマスのおほしさま	5.12.24	9:45 ～ 10:25 11:00 ～ 11:40	冬の星空には動物の星座が多いことをキャラクターと掛け合い形式で紹介した。（近藤秀作、森山千賀子、中林みぎわ）	97 78

V 特別イベント

1 スペシャルプラネタリウム「星兄の爆笑プラネタリウムショー」

全国のプラネタリウムで爆笑星空解説を行う星兄こと、田端英樹さんによる特別投影を行った。春から夏にかけての星空を題材に、星座の姿や過去の体験談などを面白おかしく紹介され、終始笑いの絶えない投影となった。（担当：近藤秀作）

日 時：令和 5 年 7 月 29 日（日） 13:00 ～ 14:00、16:00 ～ 17:00

参加人数：13 時の回 171 人、16 時の回 178 人

2 スペシャルプラネタリウム「ヘッケルとプラネタリウムの 100 年」

進化論を広めたドイツの科学者エルンスト・ヘッケルが魅了された放散虫などの多様な形態を持つ生物について、ヘッケルの描いた美しい生物のスケッチとともに、最新の技術で撮影した三次元の生物形態をプラネタリウムに映し出して紹介した。解説はヘッケルや放散虫に詳しい新潟大学の松岡篤氏。ヘッケルが住み、プラネタリウムが生まれた街イエナや、ヘッケルとも関わりのあるプラネタリウムの歴史も紹介した。（担当：吉岡 翼、近藤秀作）

日 時：令和 5 年 10 月 15 日（日） 16:00 ～ 17:30

参加人数：59 人



3 スペシャルプラネタリウム「プラネタリウム 100 周年記念講演 地上に星空を」

企画展「近代プラネタリウム誕生 100 周年 - The Planetarium Story -」の関連企画として、プラネタリウムの歴史などに造詣が深い伊東昌市氏（元国立天文台）による講演を行った。光学式投映機の誕生にまつわる話をはじめ、そのルーツである天球儀や天体運行儀などについて、伊東氏が実際に海外の博物館を視察した際の写真やエピソードとともに解説された。最後には、光学式投映機誕生以後の発展とともに、今後のプラネタリウムの未来についての考えなどを話していただいた。（担当：近藤秀作）



日 時：令和 5 年 11 月 12 日（日） 16:00 ～ 17:30

参加人数：42 人

4 スペシャルプラネタリウム「KAGAYA スペシャルトークショー～水の惑星から星空を望む～」

プラネタリウム番組「水の惑星-星の旅シリーズ-」の上映を記念し、番組を制作した KAGAYA 氏を招き、番組の鑑賞（約 30 分）と KAGAYA 氏による講演（約 1 時間）を行った。講演では、夢を持つことの大切さ、素潜りやスキューバダイビングにて水の惑星で使用した映像を撮影した際の秘話などを写真や動画を映しながら話していただいた。また、終了後にはサイン会を実施し、99 名の方が参加された。

（担当：宮野 彩）

日 時：令和 5 年 11 月 23 日（木） 16:00 ～ 17:30

参加人数：148 人

5 スペシャルプラネタリウム「潜入！地下の観測施設 KAGRA -重力波で宇宙の声を聞く-」

東京大学宇宙線研究所の宮川治氏を招き、重力波と重力波望遠鏡「KAGRA」についての講演会を行った。最初に市川学芸員による身近な事象を例に重力について解説し、その後、宮川氏と掛け合い形式で、重力波やその観測方法などについて話していただいた。後半は、R4 年度に職員が撮影した KAGRA 施設内の映像をドーム上に投影しながら施設内の紹介をしていただいた。（担当：近藤秀作、市川真史）



日 時：令和 6 年 2 月 18 日（日） 16:00 ～ 17:30

参加人数：154 人

6 第7回全天周コンテンツコンテスト※作品上映会

標記コンテストに出品された作品（静止画1点、動画5点）を解説とともに上映した。今回は一般1名による作品と、東海大学の学生により制作されたドラマ仕立ての作品4点が出品された。また上映会に先立ち、多目的学習室で全天周コンテンツコンテスト実行委員会による研究発表会が行われた。

(担当：林忠史)

※ドーム形状のスクリーンで上映することを目的とした動画・静止画作品を募集し、コンテストにより優秀作品を選考する企画。(主催：全天周コンテンツコンテスト実行委員会 共催：一般社団法人芸術科学会、後援：公益財団法人画像情報教育振興協会、協力：富山大学芸術文化学部)

日 時：令和6年3月2日(土) 16:55～17:30

参加人数：27人

7 特別投影「東日本大震災関連番組 星よりも、遠くへ」

地震や災害、被災者たちへの意識を高めることを目的とし、2018年に仙台市天文台が制作した東日本大震災の日の星空と被災者とのつながりを描いたプラネタリウム版ドキュメンタリー番組の上映を行った。令和6年1月1日の能登半島地震の発生後ということもあり、アンケートでは地震を受けてのコメントも複数みられた。(担当：宮野 彩)

日 時：令和6年3月9日(土)、10日(日) 16:00～16:45

参加人数：3月9日99人、3月10日68人

8 公益財団法人 富山市民文化事業団（オーバード・ホール）主催のプラネタリウムイベント

日 時：令和6年3月22日(金) 19:00～20:30

タイトル：アン・サリー Live in プラネタリウム

出演者：アン・サリー、市川 和則

プラネタリウムを会場として、公益財団法人 富山市民文化事業団（オーバード・ホール）によるライブイベントが開催され、当館は映像演出での協力を行った。

公演では、シンガー・ソングライターであり医師でもあるアン・サリー氏が、映画「おおかみこどもの雨と雪」の主題歌をはじめとした楽曲を披露した。当館は、楽曲に合わせて、背景に星空や美しい景色の実写映像などを投影した。(担当：近藤秀作、宮野 彩、林 忠史)



7 恐竜化石事業

普及行事として「夏休み恐竜探検隊」を8月に2日間実施し、恐竜と化石の基礎講座、化石レプリカ作り、足跡化石の見学、化石発掘体験を行った。

I 普及行事

1 夏休み恐竜探検隊

実施日：令和5年8月16日（水）、17日（木）
（16日晴れ、17日曇り）

対象：小学4～6年生（保護者同伴）

参加人数：31人（欠席8人）

場所：大山総合体育センター（スポール）
恐竜足跡化石発掘現場周辺

内容：午前 恐竜と化石の基礎講座
講師 16日 横井 肇教諭（富山県立八尾高等学校）
17日 藤田将人
化石のレプリカ作り（アンモナイトのレプリカを作成）
午後 足跡化石の見学、化石発掘体験
（担当：藤田将人、吉岡 翼）



足跡化石の見学



化石発掘体験

8 情報・広報事業

I 情報システム

情報システムは、展示や普及教育、調査研究などの各事業を有機的に結びつけ、市民にタイムリーに情報を提供するための重要なツールである。

導入から6年が経過した情報システムの大部分を更新した。機器更新とともに、画像ライブラリの公開システムと機関リポジトリは外部クラウドサービスを利用したものに変更した。環境改善により、効率よくシステムを利用出来るようになったことで、館の活動がより活発になることが期待される。

富山市内の小中学校向けの「オンラインによる学芸員の授業参加」の実施、リモート形式の研修会等への参加などでシステムが活用され、博物館活動を継続する上で重要な役割を果たした。

ウェブサイトのアクセス状況は、平成30年度からメインサイトのページビュー数（ページが開かれた回数）で評価している。データ取得のプログラムに変更があったことにともない、例年アクセス数が多くなる夏休み期間の約1ヶ月間についてデータ欠損が発生したが、年間では昨年度を上回る101万ページビュー／年を記録した。

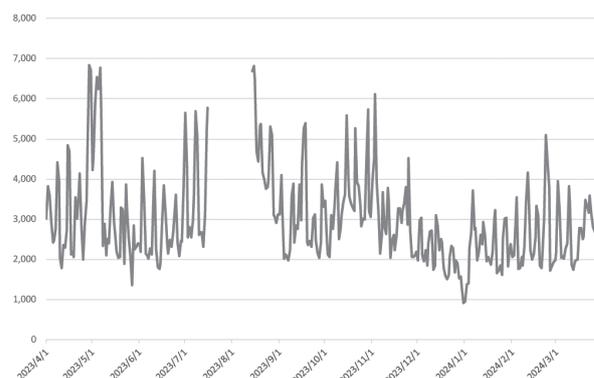


図 1 日ページビュー数の推移 (R5.4 ~ R6.3)
(フェイスブックや一部ページへのアクセスは除く)

II ウェブサイト・チラシ等による広報

1 ウェブサイトによる広報

システムには随時細かな改良を加え、より見やすく、分かりやすいページ作りに努めた。夏の特別展の開催やプラネタリウムのリニューアルの際には、PR効果を高めるための画像をトップページのメインビジュアルとして表示した。

2 SNSでの発信

Facebookでは、博物館の取り組みや行事の様子など27件の情報を投稿し、延べリーチ数は9,810件であった。またX(旧Twitter)に26件の情報を投稿した。

3 チラシの発行

- ・年間展示案内(各所配布)
- ・夏休み恐竜探検隊(館内配布)
- ・教員のための博物館の日(学校配布)
- ・特別展「大集合!富山の鳥たち」(学校・各所配布)
- ・プラネタリウム投影プログラム(館内配布)

4 館外掲示ポスター

- プラネタリウム番組(年2回・各所配布)
- 特別展「大集合!富山の鳥たち」(学校・各所配布)

5 館内掲示ポスター

プラネタリウム特別番組（14回）
企画展「ぐるぐるー自然界のかたちー」
企画展「令和4年度富山県科学展覧会入賞作品展アイデア浮かぶ科学の広場」
特別展「大集合！富山の鳥たち」
企画展「第44回 SSP 展 自然を楽しむ科学の眼 2023-2024」
企画展「近代プラネタリウム誕生 100 周年ー The Planetarium Story ー」
企画展「第31回 私の身近な自然展」
企画展「立山さんろく 自然の魅力」
星空観察会（2回）
特別観察会（3回）
友の会 P R
カップル無料制度 PR

6 映像機器による館内広報

(1) 館内案内ディスプレイ

1階総合案内前と2階エレベーター横、3階天文展示室のモニターに当日の行事や展示、プラネタリウムの番組、館内の注意事項などを表示した。なお、2階モニターは故障のため、令和5年9月から令和6年3月中旬まで休止した。

(2) プラネタリウム内でのイベント案内

土日祝日や夏休み期間中などには、プラネタリウムの投影が始まるまでの待ち時間にドーム内で上映番組やイベント情報を紹介した。

(3) 天文 PR ディスプレイ

1階ロビーに設置し、星空観察会などの天文系イベントや星空の様子などを紹介した。

Ⅲ 富山市広報・マスコミによる広報

1 広報とやま

市内の全世帯約18万5千戸へ月2回配布される「広報とやま」に、イベント情報を毎回掲載した。

2 マスコミ各社への情報提供

イベント情報を新聞社、出版社、放送局など33か所へ毎月1回提供し、6か所へは依頼に応じ提供した。本年度は新聞に、21回掲載された。

テレビ・ラジオによる情報提供・告知の詳細

氏名	取材対応日	内容	媒体	備考
太田 道人	5. 4. 6	花盛りのセイヨウタンポポの特徴、由来、増えている理由について紹介した。	北日本放送(ラジオ)	出演
近藤 秀作	5. 4. 6	リニューアルしたプラネタリウムの見所やシステム、座席などについて紹介した。	ケーブルテレビ富山	出演
林 忠史 岩田 朋文	5. 4.20	新しいプラネタリウムと3階展示室の解説をした。また、企画展の概略を紹介し、ネコザメの卵およびアンモナイトのクイズ出題に対応した。	北日本放送	出演

林 忠 史	5. 4 25	大型連休に富山で満喫できるスポットの1つとして、プラネタリウムを含む科学博物館全体を紹介した。	富山テレビ放送	出演
坂井奈緒子	5. 5.11	美女平のブナ林の中を歩き、動植物の観察をする野外行事について、コース内の見どころを紹介した。	北日本放送(ラジオ)	出演
近藤秀作	5. 6.22	「梅雨時の癒やしのスポット」として、新しくなったプラネタリウムの星空や寝ころびシートなどの座席について紹介した。	北日本放送	出演
宮野 彩	5. 6.29	七夕の日に見える星と星空観察会について紹介した。	北日本放送(ラジオ)	出演
清水海渡	5. 7.25	特別展「大集合! 富山の鳥たち」について紹介した。	富山シティエフエム	出演
岩田朋文	5. 7.29	自由研究のすすめ方相談会の解説をした。行事のねらいやよくある質問、展示を通して自由研究のテーマを探すのもおもしろい旨を紹介した。	北日本放送	出演
林 忠 史	5. 8. 1	富山テレビ放送のカメラマンが撮影したスターリンク衛星の画像に対して解説を行った。	富山テレビ放送	出演
岩田朋文	5. 8.13	小学生が庄川河川敷で見つけたピンク色のバッタについて、種名やピンク色になった原因などを解説した。	チューリップテレビ放送	取材
市川真史	5. 8.16	展示を利用してできる自由研究として、鳥の剥製を見て調べたり、浮沈子や振り子の展示をまねて自作したりすることなどを紹介した。	チューリップテレビ放送	出演
藤田将人	5. 8.16	夏休み恐竜探検隊の現地で、化石レプリカ作りや恐竜足跡化石の見学などを解説した。	NHK 富山放送局 富山テレビ放送	出演
清水海渡	5. 9.19	富山県でくらすイヌワシについて紹介した。	富山テレビ放送	出演
近藤秀作	5.11.10	開催中の企画展「近代プラネタリウム誕生100周年」について見どころや展示物について紹介した。	富山シティエフエム	出演
近藤秀作	5.11.30	開催中の企画展「近代プラネタリウム誕生100周年」について見どころや展示物について紹介した。	北日本放送(ラジオ)	出演
宮野 彩	5.12. 5	12月4日に目撃された火球についての解説と、12月中旬に見ごろのふたご座流星群について紹介した。	NHK 富山放送局	出演
清水海渡	6. 1.11	ロビー展「えとの動物ーたつー」の内容について紹介した。	富山シティエフエム FM とやま	出演

清水海渡 近藤秀作	6. 1.11	富山市科学博物館の常設展示にある見どころや楽しみ方などを紹介した。	FM とやま	出演
増渕佳子	6. 2.16	第21回「ジュニア科学賞・とやま」授賞式の様子を取材された。	チューリップテレビ放送 富山テレビ放送	取材
増渕佳子	6. 2.28	ロビー展「能登半島地震 被害調査プロジェクト」について、企画のねらいなどを紹介した。	NHK 富山放送局	出演
増渕佳子	6. 3. 3	板橋区立教育科学館で開催の「第2回全国火山実験研究交流会」で担当した、重曹とクエン酸を使った火山の噴火のメカニズムを学ぶ実験ブースについて内容を説明した。	J:COM (ケーブルテレビ)	出演
増渕佳子	6. 3.12	能登半島地震による身の回りの被害を記入用紙で報告し被害の実態を明らかにするロビー展について、企画のねらいなどを紹介した。また、当館での被害状況などを紹介した。	北日本放送	出演
藤田将人	6. 3.16	富山県から発見されている恐竜化石を紹介した。	北日本放送(ラジオ)	出演
増渕佳子	6. 3.31	講演会「先生、教えて！能登半島地震と富山の活断層」について、開催の意図などを紹介した。	北日本放送	取材

9 他機関への協力

学校、博物館などの教育機関、研究機関及び行政機関等からの要請により、各種委員会や講演・会議への職員の派遣を行った。また研修等の受け入れも行った。

I 全国大会等の開催

1 第95回形の科学シンポジウム「プラネタリウムと形の科学」の開催

形の科学会が年2回開催する「形の科学シンポジウム」について、当館を会場館・主催として実施した。招待講演2件を含む31件の発表があり、活発な質疑が行われた。

会 期：令和5年10月14日(土)～16日(月)

会 場：富山市科学博物館 多目的学習室、プラネタリウム

主 催：形の科学会、富山市教育委員会(富山市科学博物館)

参 加 者：48名

公開講演：「プラネタリウムからドームシアターへ～その実践と今後の展望～」

講師 尾久土正己(和歌山大学 教授)

「プロジェクトンマッピングー軒下・プラネタリウム・菅笠ー」

講師 辻合秀一(富山大学 教授)

II 研修等の受入

1 教員研修「社会体験研修」の受入

なし

2 職場体験学習「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」の受入

学 校 名	人 数	担当職員	学習期間
富山市立奥田中学校	3	森山千賀子	5. 7. 3～7. 7
富山市立大泉中学校	2		

3 インターンシップの受入

人 数	担当職員	学習期間
県内大学生3名	平川元法	5. 8.24

4 博物館実習生の受入

学芸員資格の取得をめざす大学生を対象に、博物館の活動や学芸員の業務の実際を学ぶ8日間の実習を行った。(担当：増渕佳子、岩田朋文)

氏 名	学 校 名	実習期間
山 岡 涼 楓	三重大学生物資源学部海洋生物資源学科	8.7～10,13,15,16,17
吉 野 秀 哉	立教大学理学部生命理学科	8.7,9,10,12,13

井川 愛理	筑波大学大学院人間総合科学研究群世界遺産学学位プログラム	8.7～10,15,16,9.10,12,13
茅野 哲博	富山大学人文学部	
岩沢 啓太	富山大学都市デザイン学部地球システム科学科	8.7～10,9.12,13,17,24
近藤 梨紗	富山大学都市デザイン学部地球システム科学科	
西嶋 音々	富山大学都市デザイン学部地球システム科学科	
横道 彩夏	富山大学理学部生物学科	8.7～10,10.31～11.3
小山 菜那	富山大学理学部生物圏環境科学科	

5 富山大学「博物館展示論」への協力

富山大学人文学部の改正学芸員養成科目のうち、「博物館展示論」の実習（1日間）を行った。

テーマ	期日	内容	学生人数	講師
展示状況の観察、 展示の解説活動	5.12.7	展示物には学芸員らの研究成果や社会的環境が反映されていることなどを学び取り、展示が果たす役割を考えた。また、人前で展示解説を行う体験をとおして、受け手への配慮の重要性について理解を深めた。	16	坂井奈緒子 藤田将人

6 大学生・大学院生への研究指導の受入

なし

7 「令和5年「宇宙の日」記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト」の開催

標記コンテストを協力科学館として実施した。県内外の小中学校から、作文の部に3点、絵画の部に17点の応募があり、部門ごとに受賞者を選定し表彰した。（主催：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、公益財団法人日本宇宙少年団）（担当：森山千賀子）

Ⅲ 講師等の派遣

1 講演会・講習会への派遣

氏名	期日	内容	場所	依頼者
増渕 佳子	5. 5.25	南砺市民大学前期講座「ふるさとを巡る」講師	福野文化創造センター	南砺市生涯学習スポーツ課長
藤田 将人 増渕 佳子 清水 海渡	5. 6. 1	基礎地球セミナー講師	富山市科学博物館	富山大学都市デザイン学部長
岩田 朋文	5. 6. 3	親子で体験！！田んぼの生き物教室	南砺市皆葎地区	南砺市農政課課長
増渕 佳子	5. 6.14 5. 6.17	ジオガイドスキルアップ研修講師	富山市科学博物館 富山市上滝地域	一般社団法人立山黒部ジオパーク協会長
吉岡 翼	5. 6.28	富山の化石：楽しみ方から保全まで	市民学習センター	富山市教育長

増 渕 佳 子	5. 8.26	「立山自然保護センター講演会・観察会」講師	立山自然保護センター 室堂周辺	一般社団法人立山黒部ジオパーク協会 会長
宮 野 彩	5. 9.20	日本天文学会 天文教育 フォーラム登壇	名古屋大学	公益社団法人 日本天文学会 会長
岩 田 朋 文	5.10. 8	「昆虫標本を観察しよう」講師	黒部市吉田科学館	黒部市吉田科学館長
清 水 海 渡	5.10. 8	有峰森林文化村行事自然観察会「有峰のちいさな動物たち」講師	有峰森林文化村公園内	公益社団法人 富山県農林水産公社
吉 岡 翼	5.10.20	第 67 回宇宙科学技術連合会 講演会特別講演演者	富山国際会議場	一般社団法人 日本航空宇宙学会 会長
藤 田 将 人 清 水 海 渡 吉 岡 翼	5.11.27	観光サポーター研修	富山市科学博物館	富山市観光協会 会長
市 川 真 史	5.12.11	富山市適応指導教室及び不登校支援事業講師	富山市科学博物館	富山市教育センター 所長
藤 田 将 人	5.12.12	富山市適応指導教室及び不登校支援事業講師	富山市科学博物館	富山市教育センター 所長
増 渕 佳 子	6. 3. 2 6. 3. 3	全国火山実験研究交流会実験講師	板橋区立教育科学館	板橋区立教育科学館長

2 会議・研究会等への派遣

氏 名	期 日	内 容	場 所	依 頼 者
水 高 清 志	5. 5.29	令和 5 年度富山県博物館協会 第 1 回理事会	富山県美術館	富山県博物館協会 会長
水 高 清 志	5. 6. 6	令和 5 年度富山県博物館協会 総会	オンライン	富山県博物館協会 会長
水 高 清 志	5. 7. 5	令和 5 年度全国博物館館長会 議	オンライン	日本博物館協会 会長
水 高 清 志	5. 7. 6	令和 5 年度第 1 回全国科学博 物館協議会理事会	オンライン	全国科学博物館協 議会理事 長
水 高 清 志	5.11.22	令和 5 年度立山カルデラ砂防 博物館運営委員会	富山県民会館	公益財団法人立山 カルデラ砂防博 物館理事 長
岩 田 朋 文	5. 6.26	令和 5 年度第 1 回全国科学館 連携協議会総会	オンライン	全国科学博物館協 議会理事 長
藤 田 将 人 岩 田 朋 文	6. 2.20	中部山岳国立公園における気 候変動に関するコンソーシア ム	オンライン	環境省中部山岳国 立公園管理事務 所
藤 田 将 人 岩 田 朋 文	6. 2.21 ～ 22	令和 5 年度第 2 回全国科学博 物館協議会理事会・総会及び 第 31 回研究発表大会	滋賀県琵琶湖博物館	全国科学博物館協 議会理事 長

林 忠 史	5. 7. 6	黒部市吉田科学館振興協会運営委員会	黒部市吉田科学館	黒部市吉田科学館長
清 水 海 渡	5.10. 6	令和5年度富山市農業農村整備事業環境検討会議	Toyama Sakura ビル	富山市長
藤 田 将 人	5.11.21	富山市環境審議会	Toyama Sakura ビル	富山市環境政策課長
増 渕 佳 子	5.11.18 5.12.25 6. 2.27 6. 3.29	日本火山学会学校教育委員会	オンライン	特定非営利活動法人日本火山学会長
増 渕 佳 子	5.10. 3	ジオパーク普及講座 松倉地質調査	松倉 坊主山付近	魚津埋没林博物館長
太 田 道 人	5. 7.31	令和5年度植生調査第1回植生分科会	オンライン	環境省自然環境局生物多様性センター長
太 田 道 人	5. 8.17	立山町文化財保護審議委員会(第1回)	立山町役場	立山町教育委員会教育長
太 田 道 人	5. 8.20 ～ 9.30	立山アルペンルート沿線外来種植物調査	立山アルペンルート沿線	立山植生研究会長
太 田 道 人	5.10.16	黒部川水系流域委員会事前説明	オンライン	国土交通省北陸地方整備局黒部河川事務所長
太 田 道 人	5.11.21	黒部川水系河川整備計画事前説明	オンライン	国土交通省北陸地方整備局黒部河川事務所長
太 田 道 人	6. 1.10	令和5年度環境省植生図北陸ブロック説明会	オンライン	環境省自然環境局生物多様性センター長
太 田 道 人	6. 1.12	立山砂防事務所管内環境調査有識者ヒアリング	オンライン	国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所長
太 田 道 人	6. 2.29	富山県中央植物園事業評価委員会(欠席)	富山県中央植物園	花と緑の銀行理事長
太 田 道 人	6. 3.26	立山町文化財保護審議委員会(第2回)	立山町役場	立山町教育委員会教育長
高 畑 晃	5. 5.12	富山県理科教育振興会第1回拡大副会長会	富山県教育記念館	富山県理科教育振興会会長
高 畑 晃	5. 6. 9	富山県理科教育振興会全体研修会	富山県総合教育センター	富山県理科教育振興会会長
高 畑 晃	5. 7.10	富山県科学展準備委員会	富山市科学博物館	富山県理科教育振興会会長
高 畑 晃	5. 7.28	富山県理科教育振興会第2回拡大副会長会	富山県総合教育センター	富山県理科教育振興会会長

高畑 晃	5.10. 4	富山県理科教育研究発表会	富山県総合教育センター	富山県理科教育振興会会長
高畑 晃	5.10. 6 5.10.17 5.10.18 5.10.23	富山県科学展覧会実行委員会	富山市科学博物館	富山県理科教育振興会会長

3 大学非常勤講師派遣

氏名	期間	内容	依頼者
坂井奈緒子	5.11.1 ~ 6.3.31	博物館展示論	国立大学法人富山大学長
藤田 将人	5.11.1 ~ 6.3.31	博物館展示論	国立大学法人富山大学長

IV 委員等受嘱

氏名	期間	内容	依頼者
水 高 清 志	3. 4. 1 ~ 5. 3.31	全国科学博物館協議会理事	全国科学博物館協議会理事 会長
水 高 清 志	4. 4. 1 ~ 5. 3.31	富山県博物館協会副会長	富山県博物館協会会長
水 高 清 志	5. 4. 1 ~ 7. 2. 9	日本海学推進機構専門委員	公益財団法人とやま国際 センター理事長
水 高 清 志	5.10. 1 ~ 7. 3.31	公益財団法人立山カルデラ砂防博物 館運営委員会委員	公益財団法人立山カルデ ラ砂防博物館理事長
林 忠 史	4. 4. 1 ~ 7. 3.31	黒部市吉田科学館振興協会運営 委員	黒部市吉田科学館振興協 会理事長
坂井奈緒子	4.10. 1 ~ 6. 9.30	富山県河川整備計画検討委員	富山県知事
増 渕 佳 子	4. 7. 1 ~ 6. 6.30	日本火山学会学校教育委員会委員	特定非営利活動法人日本 火山学会会長
増 渕 佳 子	4. 7.23 ~ 6. 7.22	日本地質学会生涯教育委員会委員	一般社団法人日本地質学 会会長
吉 岡 翼	5. 7.15 ~ 6. 3.31	日本サイエンスコミュニケーション 協会会員活動活性化委員会委員	一般社団法人日本サイエ ンスコミュニケーション 協会会長
宮 野 彩	5. 6. 1 ~ 6. 6.30	日本プラネタリウム協議会編集委員	日本プラネタリウム協議 会理事長
太 田 道 人	5. 7.19 ~ 7. 3.31	黒部川水系流域委員会委員	国土交通省北陸地方整備 局長
太 田 道 人	5. 4. 1 ~ 7. 3.31	立山町文化財保護審議委員会委員	立山町教育委員会教育委 員会
太 田 道 人	4. 4. 1 ~ 6. 3.31	富山県中央植物園事業評価委員	公益財団法人花と緑の銀 行理事長
太 田 道 人	5. 6.14 ~ 7. 3.31	常願寺川水系流域委員会委員	国土交通省北陸地方整備 局長

太田道人	4. 3.17 ～6. 3.31	神通川水系流域委員会委員	国土交通省北陸地方整備 局長
太田道人	4. 3.17 ～6. 3.31	庄川水系流域委員会委員	国土交通省北陸地方整備 局長
太田道人	4. 7. 1 ～6. 6.30	立山ルート緑化研究委員会専門委員	立山ルート緑化研究委員 会委員長
太田道人	5. 5. 1 ～6. 3.31	砂防事業にかかる環境調査アドバイザー	国土交通省北陸地方整備 局黒部河川事務所長
太田道人	5. 6. 8 ～6. 3.31	砂防事業にかかる環境調査アドバイザー	国土交通省北陸地方整備 局立山砂防事務所長
太田道人	5. 7. 4 ～7. 3.31	黒部川自然再生検討会委員	黒部河川事務所長
太田道人	5. 6.20 ～改訂完了迄	レッドデータブックとやま改訂のた めの検討委員会委員	富山県知事
高畑 晃	5. 6.20 ～改訂完了迄	レッドデータブックとやま改訂のた めの検討委員会委員	富山県知事
高畑 晃	5. 4. 1 ～6. 3.31	富山県理科教育振興会科学展委員会 副委員長	富山県理科教育振興会会長

10 ボランティア事業

32年目となるボランティア事業の今年度の活動時間はのべ987時間であった。普及行事のサポートや、自身の専門的なスキルを活かして資料整理や調査研究などで活躍いただいている。新型コロナウイルス感染症拡大以降、グループ活動を休止していたが、新たなグループ活動が立ち上がり、定期的な活動も再開した。

I 登録者数と活動時間

1 登録者数

91人（男性54人、女性37人）

内訳は、前年度からの継続者が83人、新規登録者が8人である。

2 活動時間

新型コロナウイルスの感染拡大後、数年にわたり活動が停滞していたが、今年度の活動時間は前年度に比べ約200時間の増となり、感染拡大前の活動レベルに戻りつつある。

活動項目	時間	割合(%)
展示	37.2	3.8
行事	248.0	25.1
資料整理	338.6	34.3
調査	280.6	28.4
その他	82.4	8.4
合計	986.8	100

II 活動内容

1 研修・学習

実施日	行事名	参加者数
5. 5.20	絵本読み聞かせ交流会	10
5. 7.16	ボランティア向け特別展 解説会	1
5. 7.16	絵本読み聞かせ交流会	6
5. 8. 6	絵本読み聞かせ研修	0
5. 8.15	絵本読み聞かせ研修	0
6. 1.18	科学セミナー	4
6. 2. 5	令和6年度ボランティア	5
6. 2.10	登録前研修	6
6. 3.10	研究発表会「学芸員の研究を聞きにきませんか」	12

2 普及教育活動への協力

(1) とやまの自然探検

実施日	行事名	活動者数
5. 4. 9	カタクリとギフチョウの猿倉山	7
5. 6. 4	ヒスイ海岸の石ころ観察会	3
5. 5.21	初夏の美女平	6
6. 3.24	野鳥の声を聞きに行こう!	4

(2) 科学教室

実施日	行事名	活動者数
5. 6.18	ピカピカ泥だんごを作ろう!	1
5. 7.23	ざっそうのかかく	1
5.12.17	モーターをつくろう	1

(3) 星空観察会・特別観察会

望遠鏡の案内等に協力いただいた。

月	日数	活動者数 (延べ人数)
5. 4	5	11
5. 5	5	12
5. 6	4	12
5. 7	6	12
5. 8	4	10
5. 9	6	18
5.10	4	11
5.11	4	12
5.12	4	11
6. 1	4	9
6. 2	4	12
6. 3	5	15

3 プラネタリウム番組製作への協力

(1) 季節の星空紹介

秋の星空解説のナレーションを担当。

(活動者数 1)

4 ボランティア企画による普及教育活動

(1) 読み聞かせ

実施日	行事名	活動者数
5. 8.18	ぞうきばやしのすもう たいかい	1
5. 8.25	とりになったきょう りゅうのはなし	1
5. 8.27	くちばし	1
5.10.15	ピーナッツ なんきん まめ らっかせい	1
6. 3.31	さくら	1

5 グループ活動

(1) 泥団子倶楽部

天然の土を使って、表面がツルツルでまんまるの泥団子を作る活動。泥団子に向けた粘土を野外で探したり、作り方を検討したりして、一般向けの普及行事を行うことを目的としている。(活動者数 3)

(2) 「地球をめくろう」の会

地球の内部構造を直感的に伝えるオリジナル絵本を製作する活動。完成した絵本を博物館で展示することを目標としている。(活動者数 8)

Ⅲ ボランティア通信の発行と メーリングリストの運営

会員向け連絡紙「ボランティア通信」を年4回発行し、館とボランティアやボランティア同士のコミュニケーションを図った。ボランティア通信は、印刷版とオンライン版を発行し、54名がオンライン版を利用している。

ボランティアメーリングリストは、ボランティア通信で紹介できなかった活動の案内・募集などを行っており、ボランティア 79 人が登録している。

ボランティア通信の発行

発行日	号 (No.)
5. 4.15	No.156
5. 7. 1	No.157
5.11. 1	No.158
6. 1.31	No.159

11 「ジュニア科学賞・とやま」事業

富山市出身の田中耕一氏が平成14年にノーベル化学賞を受賞されたことを記念して、富山市及び富山市教育委員会が平成15年度から行っている事業である。子どもたちの科学や自然に対する豊かな創造性の育成を目的として創設された賞で、田中耕一氏の研究姿勢にみられる「優れた着想」、「ユニークなアイディア」、「粘り強い努力」のいずれかに抜きん出た県内の児童・生徒を、毎年3人以内で表彰している。

第21回「ジュニア科学賞・とやま」

候補者として、小学校から6名、中学校から6名、計12名が学校長から推薦された。研究分野別人数は、小学生では、物理分野が2名、化学分野が2名、生物分野が2名、中学生では、物理分野が2名、生物分野が3名、地学分野が1名であった。そのうち3名が下記のとおり受賞者に選出され、令和6年2月16日に富山市科学博物館で授賞式が行われた。受賞者と研究内容を紹介するパネルは、同日から次回の受賞者が決定するまでの約1年間、とやま・ノーベル賞受賞者コーナーに展示される。

受賞者とその研究内容、候補者を紹介するパンフレットを1,100部作成し、県内小中学校、教育委員会等関係機関に配付した。選考委員及び調査協力員は1章のIIを参照。(担当:増淵佳子、高畑 晃、森山千賀子)

受賞者名と研究内容

中西瑠焯斗さん (黒部市立若栗小学校6年)	「モリアオガエルの生態に関する研究」
後藤 志歩さん (射水市立大門中学校2年)	「ユニバーサル紙風船の開発」
笹島 浩裕さん (入善町立入善西中学校2年)	「沢スギの生き物に関する研究」



前列(左から) 中西瑠焯斗さん、後藤志歩さん、笹島浩裕さん
後列(左から) 宮口克志富山市教育長、片岡 弘選考会議座長(富山大学教育学部教授)、水高清志科学博物館長



パンフレット

12 科学博物館整備事業

常設展示は、平成 19（2007）年の更新から 16 年が経過し、内容に社会情勢の変化や科学の進歩を伴っていないものがあるとともに、装置類の経年劣化が進んでいる等の状況にある。また天文台の廃止に伴う天体観察機能の再構築に関する検討が必要となっていた。これらに対応するため、令和 5 年度、市教育委員会に学識経験者等で構成する富山市科学博物館展示更新計画検討委員会を設置し、検討を重ね、「富山市科学博物館展示更新計画」を令和 6 年 2 月に策定した。

計画期間は令和 6 年度を初年度とする 15 年間程度の運用に対するものとし、前半は更新期間（6 期に分割）、後半は運用・保守を行う期間としている。

更新計画

- 第 1 期 サイエンス・ラボ（仮称）の整備
- 第 2 期 展示室「とやま・時間のたび」およびエントランス展示の更新
- 第 3 期 展示室「とやま・空間のたび」の丘陵地から海エリアの更新
- 第 4 期 同 高山から山地エリアの更新
- 第 5 期 「おもしろ実験ひろば」を改め「ためして発見ひろば」へと更新
- 第 6 期 城南公園内での天体観察室の設置

富山市科学博物館展示更新計画検討委員会委員（委員は五十音順）

区分	氏名	役職名
委員長	青木 一真	富山大学学術研究部理学系教授
副委員長	布村 昇	金沢大学環日本海域環境研究センター海洋環境領域連携研究員
委員	齋藤 吉彦	元大阪市立科学館館長
委員	佐野 晋一	富山大学学術研究部都市デザイン学系教授
委員	田中 斉	富山県市長会事務局長
委員	牧野 弥一	富山市科学博物館友の会会長

策定経過

開催日等	会議名等
令和 5 年 5 月～8 月	各種調査 ・既存展示調査（内部評価調査、外部評価調査） ・収蔵品調査 ・県内の天文関連施設調査 ・類似館調査 ・関係団体へのニーズ調査 ・教員へのヒアリング調査
令和 5 年 5 月 31 日	富山市科学博物館展示更新計画検討委員会 第 1 回会議
令和 5 年 10 月 20 日	富山市科学博物館展示更新計画検討委員会 第 2 回会議
令和 5 年 11 月 12 日 ～11 月 17 日	富山市科学博物館展示更新計画検討委員会 第 3 回会議（書面開催）
令和 5 年 12 月 20 日 ～令和 6 年 1 月 5 日	パブリックコメントの実施
令和 6 年 1 月 30 日	富山市科学博物館展示更新計画検討委員会 第 4 回会議
令和 6 年 2 月	富山市科学博物館展示更新計画 策定

13 富山市科学博物館友の会

友の会は、博物館と連携した活動を通じて会員相互の親睦と教養の向上を図り、また博物館が広く親しまれるよう、館の行事に協力して自然科学の発展に寄与することを目的としている。博物館は事業企画や講師派遣等をとおして、友の会活動をサポートしている。友の会では会員向けの行事を開催しており、博物館は、科学教室に5回（ミニ科学教室1回を含む）、野外教室に4回、スペシャルデーに1回協力した。

会員数は一般会員115人、家族会員199人、賛助会員6口（令和5年12月末現在）である。

友の会の活動・会計年度は暦年で運営されているため、令和5年1～12月までの活動を報告する。
（担当：岩田朋文、清水海渡、増渕佳子、森山千賀子、本田実咲）

I 役員構成

会長	牧野弥一
副会長	高木和広 関野玲子
理事	田口松男 卜部敦夫 中林誠治 水高清志（科学博物館館長） 林 忠史（科学博物館学芸課長）
会計監査 （監事）	矢後英子 牧 静枝
事務局長	高田まどか（科学博物館総務課長）

任期：令和5年1月22日から2年間

II 活動内容

名 称	実施日	内 容	参加人数
第1回役員会	5. 1.22	令和5年度友の会事業計画について決定した。	—
令和5年度総会	5. 1.22	令和4年度の事業報告及び収支決算、令和5年度の事業計画及び収支予算について承認した。	—
ミニ科学教室 雪のハナシとチャーム作り	5. 1.22	雪の解説を聞き、雪の結晶をモチーフとしたチャームを作製した。（総会と同日開催） （講師：科学博物館ボランティア 中島智美）	15
科学教室 へえ～！一植物雑学教室	5. 4.30	リンゴや柿の可食部位の違いを比較したり、コケの胞子を顕微鏡で観察したりした。 （講師：太田道人・坂井奈緒子）	32
バスツアー「恐竜時代へ タイムトリップ in 白山市」	5. 5.28	手取峡谷や桑島化石壁を観察したり、白山恐竜パーク白峰で化石採取を体験したりした。（講師：白山市 大塚健斗氏）	35
友の会スペシャルデー 特別展「大集合！富山の鳥たち」	5. 7.16	特別展「大集合！富山の鳥たち」オープンに合わせ、展示解説と鳥の羽根しらべを実施した。 （講師：清水海渡・高畑 晃）	23

科学教室 植物画を描こう!	5. 8. 6	モチーフとなる植物の解説を聞き、顕微鏡やピンセットで細部を観察して植物画を描いた。 (講師：越の花倶楽部 山本清美・坂井奈緒子)	9
野外教室 ライトトラップでクワガタを狙おう!	5. 8.18	猿倉山森林公園にて、ライトトラップを使った昆虫観察会を実施した。 (講師：越中むしの会 惣名 実・岩田朋文)	32
科学教室 自分だけのプラネタリウムを作ろう	5. 9.17	プラネタリウムの工作キットを組み立て、プラネタリウムの仕組みを学んだ。 (講師：近藤秀作・森山千賀子)	18
科学教室 作って飛ばそう! 本格ペーパーグライダー	5.10. 7	ペーパーグライダー工作キットを組み立て、城南公園で飛ばし、飛行機の仕組みなどを学んだ。 (講師：富山紙飛行機倶楽部会員4名・市川真史)	15
野外教室 砂鉄から鉄を作ろう (前半)	5.10.22	浜黒崎海岸で砂鉄を採取し、精選・乾燥を行うとともに、たたら製鉄の原理や方法を学んだ。 (講師：増渕佳子)	25
野外教室 砂鉄から鉄を作ろう (後半)	5.11.19	採取した砂鉄を用いて、たたら製鉄により鉄(玉鋼)を製錬した。 (講師：友の会 山岸孝司・山岸範之・増渕佳子)	22
野外教室 冬の野鳥観察	5.12. 3	富山県中央植物園の池で休むカモなどの冬鳥を観察した。 (講師：清水海渡・高畑 晃)	16
第2回役員会	5.12.17	次年度総会に提出する議案について協議した。	—
会報の発行(編集：岩田朋文)		第143号 令和5年 1月 5日発行 第144号 令和5年 3月 31日発行 第145号 令和5年 4月 20日発行 第146号 令和5年 6月 20日発行 第147号 令和5年 8月 20日発行 第148号 令和5年 9月 20日発行 第149号 令和5年 10月 31日発行	



科学教室
植物画を描こう!



野外教室
冬の野鳥観察

14 アンケート調査結果

I プラネタリウム幼児向け投影参加団体アンケート

1 目的と方法など

番組の感想や運用方法に対する意見を聞き今後の改善につなげるため、アンケートを実施した。
(担 当：近藤秀作、宮野 彩)

- (1) 期 間 令和5年6月1日(金)～7月14日(金)
- (2) 対 象 参加した108団体
- (3) 実施方法 当日受付時に配布し、退館までに回収、または後日FAXで受取り
- (4) 回 答 数 76団体

2 アンケート結果

(1) 観覧した幼児の年齢

76団体から回答があり、年長75団体(83%)、年中12団体(14%)、年少3団体(3%)であった(複数学年で来館の団体あり)。

(2) 番組前半(星座紹介・七夕の話)の評価

おおむね好評であった。

(%)

内 容	とても良い	良い	ふつう	あまり良くない	良くない	無回答
星座紹介・七夕の話	67	32	1	0	0	0

(3) 番組後半(たぬきのぼん、つきへゆく)の評価

(3-1) 番組全体

おおむね好評であった。

(%)

内 容	とても良い	良い	ふつう	あまり良くない	良くない
たぬきのぼん、つきへゆく	49	43	8	0	0

(3-2) 約14分間の番組の長さ

9割以上からちょうどよいとの回答を得た。

(%)

内 容	短かった	少し短かった	ちょうどよい	少し長かった	長かった
番組の長さ	1	3	96	0	0

(3-3) 内容への興味度

投影中の幼児の反応や園に戻った後の園児との会話などから、おおむね興味を持ってもらうことができた。

(%)

内 容	とても思う	そう思う	わからない	あまり思わない	全く思わない
月に対する幼児の興味が高まったか	20	68	9	3	0

(3-4) 内容の分かりやすさ

おおむね分かりやすかったとの回答を得た。

(%)

内 容	とても思う	そう思う	わからない	あまり思わない	全く思わない
分かりやすい内容であったか	43	55	1	0	0

(4) 自由記述意見

感想や意見など

- ・子どもたちへの問いかけがあり、とても喜んでいました。プラネタリウムで座る場所が各園で決まっており、間隔があけてあり安心できました。
- ・暗いのが怖い子もいましたが、怖さを忘れるくらい楽しく進行して下さり、子ども達もとても喜んでいました。40分と長い時間ですが子供とのかけ合いがあったり、楽しいたぬきの話し等、工夫がたくさんあり、満足です。
- ・星座の話聞いてから「オリオン座見つけたことあるよ」「今度オレンジの星探してみる」と星や星座にとっても興味を持ったようです。

II プラネタリウム学習投影参加校アンケート

1 目的と方法など

番組の感想や運用方法に対する意見を聞き今後の改善につなげるため、アンケートを実施した。

(担当：近藤秀作、宮野 彩)

- (1) 期 間 令和5年11月1日(水)～12月15日(金)
- (2) 対 象 参加小学校76校(市内63校、市外13校)
- (3) 実施方法 当日受付時に用紙を配布し、退館までに回収または後日FAX・メールで受取り
- (4) 回 答 数 市内63校、市外10校

2 アンケート結果

(1) 番組について

①評価

令和4年度は、プラネタリウム休止に伴いほとんどの学校が展示見学のみであったため、市内学校からの今年度のデータを集計し、令和3年度と比較した。内容4項目について「とても良い」と「良い」が9割以上と、令和3年度同様おおむね好評だった(括弧内は令和3年度)。

(%)

内 容	とても良い	良い	ふつう	あまり良くない	良くない
1 太陽と月の動きの解説	95 (92)	5 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
2 星座・星の色の違いの解説	92 (89)	8 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
3 星の動きの解説	97 (94)	3 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
4 太陽系旅行	94 (84)	6 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

②自由記述意見

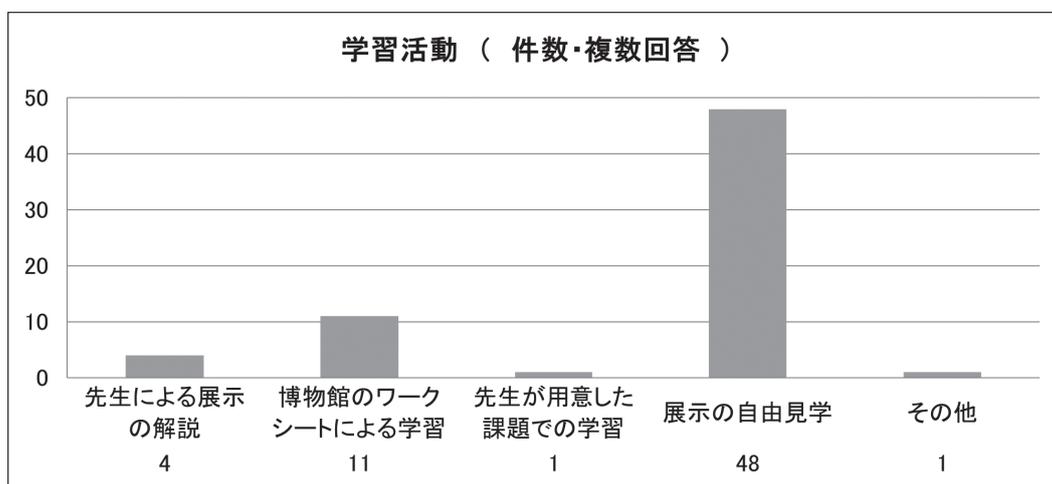
- ・科学博物館に到着したときに外で実際の景色を見ながら方角の確認をしてくださったのがとてもよかった。バスの中で子どもたちと北上しながら博物館に向かっている話をしていたことがつながり、理解が深まったように感じた。
- ・「これは3年生で学習したことです」「ここからは4年生で学習した内容です」と解説があったため、既習内容と結びつけながら理解していくことができた。
- ・実際に星を動かしながら説明していただいたので、子ども達は、星の動きなどについて教科書で学ぶよりも分かりやすく学ぶことができた。
- ・実際の方角を意識しながら、太陽と月の動きを模擬体験しながら確認することができた。また、星座にまつわる神話や迫力ある宇宙体験旅行等を、楽しみながら学習し、星について興味を高めることができた。

(2) 学習投影以外の学習活動について

学習投影観覧以外にどのような学習活動を館内で行ったかを尋ねた（複数回答）。

①集計結果

ほとんどの学校は展示の自由見学のみであったが、博物館が制作したワークシートを活用した学習を取り入れた学校もあった。



編集発行

富山市科学博物館

〒 939-8084 富山市西中野町一丁目 8 番 31 号

TEL (076) 491-2123

FAX (076) 421-5950

ホームページ <https://www.tsm.toyama.toyama.jp/>

令和 6 (2024) 年 7 月発行

印刷所 (有)ヤツオ印刷 TEL (076) 455-1201